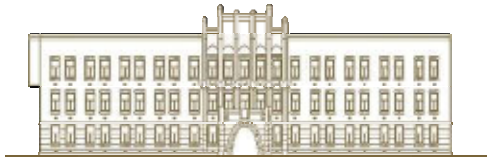
平成２９（2017）年度

事 業 報 告 書



Ver.　1.5

２０１８年５月

学校法人　四條畷学園

目　次

Ⅰ．法人の概要

1．建学の精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2．教育理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3．教育方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
4．長期ビジョン・中期計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
5．学校法人の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
6．設置する学校・学部・学科等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
7．学校法人の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
9．役員・評議員・後援会組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
10．教職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
11．学生・生徒・児童・園児数の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅱ．事業の概要

1．法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
2．大学　リハビリテーション学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
3．大学　看護学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
4．短期大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
5．高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
6．中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
7．小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
8．幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
9．主な新規事業の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

Ⅲ．決算の概要

1．概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
2．事業活動収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
3．資金収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
4．貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

学校法人 四條畷学園

Ⅰ．法人の概要

1．建学の精神

報恩感謝

本学園は、牧田宗太郎、環兄弟によって大正１５年（１９２６年）に設立されました。兄弟は、自分達が教育界・実業界で世の役に立つことができたのは厳しい中にも慈しみ深い愛情をそそぎ、教育してくれた母がいたからこそだと、母への感謝と敬愛の念をつねに胸に深く抱いていました。

そして、母に対する報恩の心を表すために、史情豊かな四條畷の地を選び、ここに教育の理念を実現させるべく学校を建てようと念願されました。このようにして本学園の母体となった四條畷高等女学校が設立され、母に対する報恩感謝の念が具現化されたのです。

この至純なる精神は、本学園建学の精神として後世に引き継がれ、今日の総合学園に至る発展の歩みを支えるものとなっています。

＊この説明文は本館の前にある創立者牧田宗太郎先生、牧田環先生のレリーフ碑に記載された文章をもとに作成しました。

2．教育理念

人をつくる

教育の目的は人をつくることであり、人をつくることは、徳、知、体三育の偏らざる実施とその上に立つ品性人格の陶冶に依ってのみ可能です。

・実践躬行

品性人格は、単に知識を身につけるだけではなく、身を以て実際に行うことにより習得されます。

・Ｍａｎｎｅｒｓ　ｍａｋｅｓ　ｍａｎ

礼儀正しい行いを身につけることが、人として成長し、品性人格の備わった人になることにつながります。

＊これは、四條畷高等女学校の教育方針の前文と本館の飾り煉瓦にある牧田宗太郎先生が自ら刻まれた言葉から構成しています。

3. 教育方針

個性の尊重

個々の人が持つ異なる性格と特色ある才能とを尊重し、これを画一化することなく、それぞれの天賦の才能を探求し、発揮させます。

明朗と自主

自分たちの未来を信じて、明るく朗らかで、何事にも自主的、積極的に取り組む人を育てます。

実行から学べ

知識は実践を伴ってこそ価値があることを知り、「知って行い、行って知った」という課程を通じて学ぶ人を育てます。

礼儀と品性

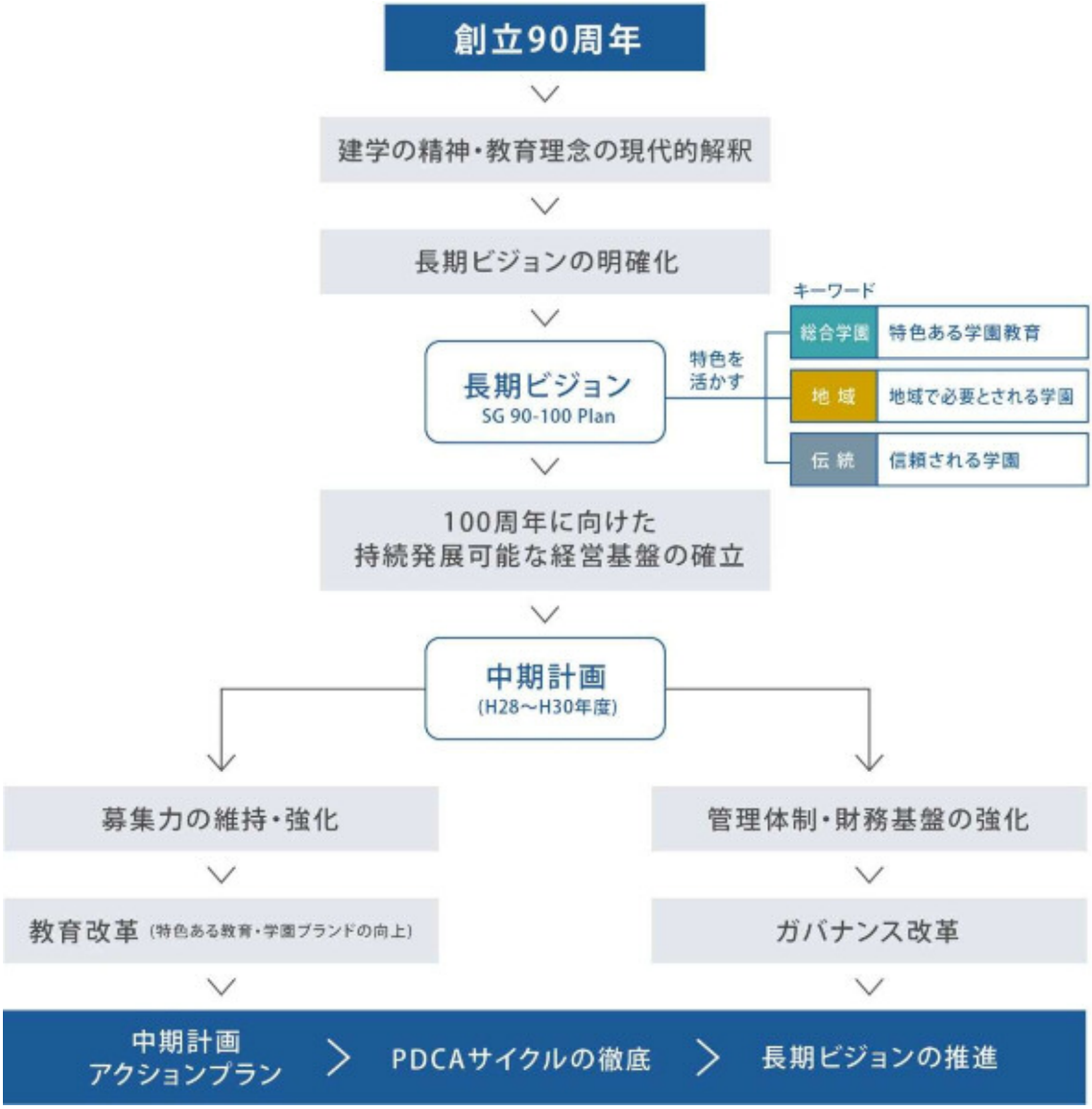
礼儀と礼節を重んじ、自らの教養を磨く、品性豊かな人を育てます。

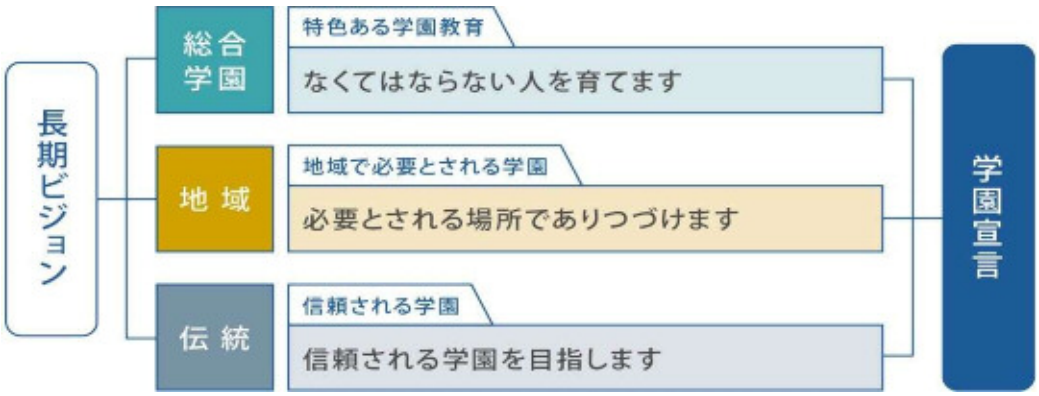
＊高等女学校設立当時の教育方針を尊重し、「個性の尊重」「明朗と自主」「実行から学べ」に「礼儀と品性」を追加しました。設立当時は四点目が「貞淑にして温雅」ですが、今の時代にあわせた表現に変更しました。

4. 長期ビジョン・中期計画

創立 100 周年に向け、持続発展する四條畷学園のために以下のように定めています。

(1)長期ビジョン・中期計画の全体イメージ



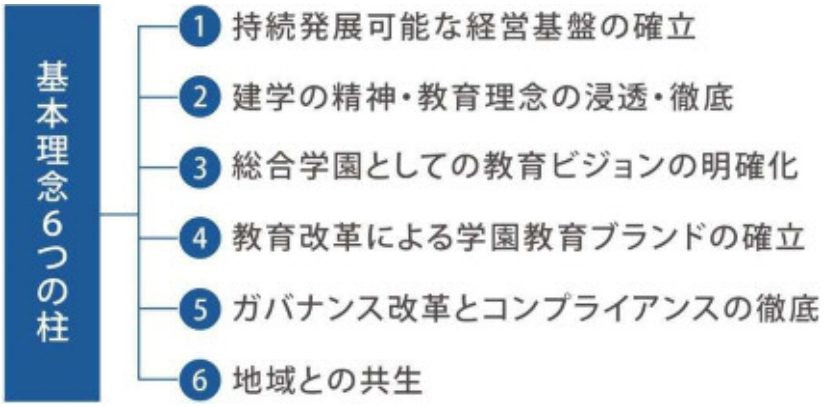


学校法人 四條畷学園

(2)長期ビジョン・学園宣言の考え方

ア.基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいいかたちで迎えられるよう六つの基本理念を設定



しています。

① 持続発展可能な経営基盤の確立

100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

「総合学園というが、学園全体の統一イメージがわかない」といった声に対し、各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、教育ビジョンの明確化を図ります。

④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を重視します。

⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者のリーダーシップが発揮され、それによる各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。合わせて、ディスクロージャー時代を迎え、財務情報等様々な情報を公開することにより、運営面での透明性を確保していきます。

⑥ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、保健医療系大学としての特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

(3)長期ビジョンの基本的考え方

【特色ある学園教育】

○　学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。

○　近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う質の高い効果的な教育すなわちアクティブラーニング(文科省)」と「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。

○　90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

【地域で必要とされる学園】

○　「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣地域の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。

○　リハビリテーション学部に看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

【信頼される学園】

○　90 年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100 周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。

○　近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。

○　SNS の時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。

○　私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心とした PDCA 管理の徹底が求められています。

5. 学校法人の沿革

大正 15 年（1926 年）	古川橋仮校舎にて四條畷高等女学校 創立
昭和 2 年（1927 年）	学校を現所在地（四條畷の地）に移転
昭和 4 年（1929 年）	本館 竣工(現在も使用中)
昭和 16 年（1941 年）	財団法人 四條畷学園 認可
	四條畷学園幼稚園 開園
昭和 22 年（1947 年）	新制四條畷学園中学校 開校
昭和 23 年（1948 年）	新制四條畷学園高等学校 開校
	四條畷学園小学校 開校
昭和 26 年（1951 年）	学校法人　四條畷学園 認可
昭和 39 年（1964 年）	四條畷学園女子短期大学（現 四條畷学園短期大学） 開学
平成 3 年（1991 年）	臨床心理研究所（ICP） 設置
平成 13 年（2001 年）	短期大学リハビリテーション学科 開設
平成 17 年（2005 年）	四條畷学園大学 開学
平成 22 年（2010 年）	中学校・高等学校 6 年一貫コース 開設
平成 27 年（2015 年）	大学看護学部看護学科 開設

6. 設置する学校・学部・学科等(2017/5/1 現在)

四條畷学園大学

学　長：廣島 和夫

・リハビリテーション学部［ 理学療法学専攻 / 作業療法学専攻 ］

所在地：〒574-0011 大阪府大東市北条 5 丁目 11 番 10 号

・看護学部［ 看護学科 ］

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

四條畷学園短期大学

学　長：廣島 和夫

・保育学科

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

・ライフデザイン総合学科

所在地：〒574-0011 大阪府大東市北条 4 丁目 10 番 25 号

・ライフデザイン総合学科［ 総合福祉コース ］

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

四條畷学園高等学校

校　長：飯田 英佳

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

四條畷学園中学校

校　長：仲尾 信一

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

四條畷学園小学校

校　長：北田 和之

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

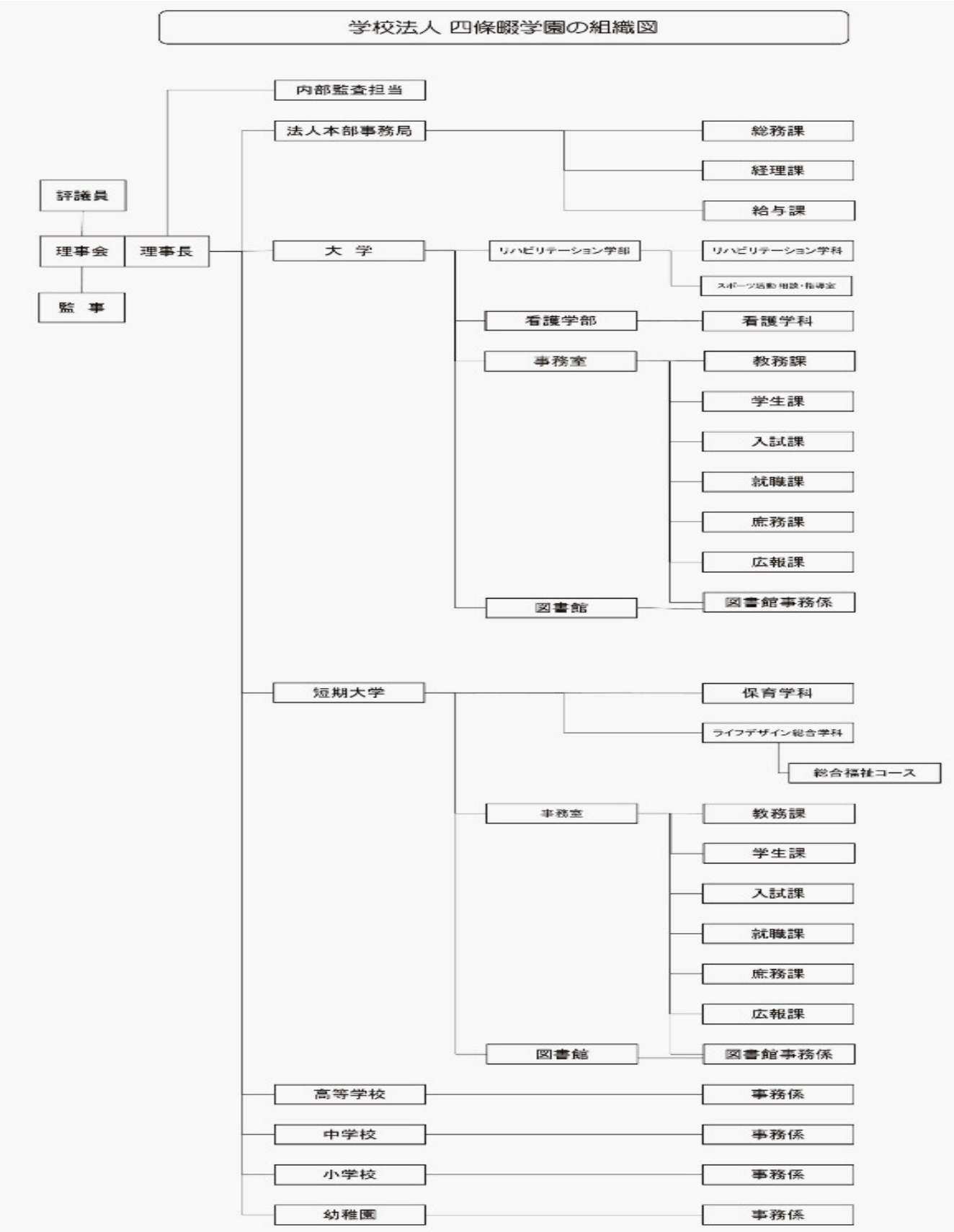
四條畷学園大学附属幼稚園

園　長：前田 泉

所在地：〒574-0001 大阪府大東市学園町 6 番 45 号

学校法人四條畷学園

7. 学校法人の組織(2017/5/1 現在)



学校法人 四條畷学園

8. 役員・評議員・後援会組織(2017/5/1 現在)

(1)役員・評議員

理　事　９名　理事長　川﨑　博司

理　事　小谷　　明(副理事長)

理　事　田中　脩雄　　＊

理　事　清澤　　悟　　＊

理　事　石村　哲代　　＊

理　事　髙山　光夫　　＊

理　事　廣島　和夫(大学・短期大学学長)

理　事　牧田　朝美(小学校教諭)

理　事　尾村　和彦(事務局長)

＊外部理事

監　事　２名　監　事　　佐藤　多加志

監　事　　木寅　文雄

評議員 25 名

第１号評議員：　２名（法人職員）

本山　一士、中橋　健司

第２号評議員：　２名（卒業生）

牧田　朝美、大西　寛治

第３号評議員：20 名（学識経験者）

小谷　明　、清澤　　悟、廣島　和夫、石村　哲代、高山　光夫、
田中　脩雄、尾村　和彦、梶尾　　晃、繁原　秀孝、横田　将憲、
山内　康俊、小南　市雄、伊泊　理香、榊原　和子、森永　敏博、
森　　圭子、仲尾　信一、北田　和之、大西　里美、渡邊　忠夫

第４号評議員：　１名（理事長）

川﨑　博司

(2)後援会組織

四條畷学園大学・短期大学保護者会

四條畷学園 PTA(高等学校・中学校・小学校・幼稚園)

四條畷学園同窓会　「若楠」

四條畷学園後援会

四條畷学園友の会

四條畷学園楽楠会(退職教職員の親睦会)

9．教職員数(2017/5/1 現在)

校園種類	本務教員				兼務教員	本務職員			兼務職員	役員	合計
	本務教員	常勤講師	嘱託教員	合計		本務職員	嘱託職員	合計			
大学	49名		3名	52名	31名	10名	4名	14名	5名		102名
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部	23名		3名	26名	19名	4名	1名	5名	4名		54名
看護学部	26名			26名	12名	6名	3名	9名	1名		48名
短期大学	15名		4名	19名	68名	4名	13名	17名	15名		119名
保育学科	9名			9名	32名	2名	6名	8名	3名		52名
ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科	3名		3名	6名	27名	1名	7名	8名	12名		53名
総合福祉ｺｰｽ	3名		1名	4名	3名	1名		1名			8名
音楽教室					6名						6名
高等学校	67名	2名	12名	81名	58名	8名	8名	16名	30名		185名
高等学校	67名	2名	12名	81名	58名	8名	8名	16名	26名		181名
水泳教室									4名		4名
中学校	36名	2名	1名	39名	8名	2名	1名	3名			50名
小学校	28名		2名	30名	6名		1名	1名	8名		45名
幼稚園	17名	1名	3名	21名	5名		2名	2名	30名		58名
法人本部						1名		1名	1名		2名
理事会										7名	7名
総 計	212名	5名	25名	242名	176名	25名	29名	54名	89名	7名	568名

10. 学生・生徒・児童・園児数の概要(2017/5/1 現在)

校園	学部・学科名等	定員		現員						合計		
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	29年度	28年度	前年比増減
大学	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科 理学療法学専攻	40	160	33	41	40	70			184	187	-3
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科 作業療法学専攻	40	160	18	30	40	35			123	156	-33
	看護学部看護学科	80	320	87	76	78				241	160	81
	合計	160	640	138	147	158	105			548	503	45
短期大学	保育学科	100	200	102	102					204	214	-10
	ライフデザイン総合学科	80	180	83	78					161	161	0
	同総合福祉コース	20	40	0	10					10	22	-12
	合計	200	420	185	190					375	397	-22
高等学校	－	430	1,680	445	433	431				1,309	1,346	-37
中学校	－	175	600	186	193	194				573	584	-11
小学校	－	90	648	102	102	89	95	96	100	584	581	3
幼稚園	－	125	405	120	118	131				369	381	-12
合計	－	1,180	4,393	1,176	1,183	1,003	200	96	100	3,758	3,792	-34

＊高等学校、中学校、小学校、幼稚園の入学定員欄は募集定員を示します。

学校法人 四條畷学園

法人本部

No	施策種類	事業計画	実施状況
1	重点取組事項	(1) SG90-100Plan（長期ビジョン）を推進します。 創立 90 周年を機に策定した長期ﾋﾞｼﾞｮﾝ SG90-100Plan の継続的な推進と各校園ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝの進捗管理を実施します。	平成 29 年度各校園の実績状況のﾁｪｯｸ実施。 また、各校園の PDCA を促進。
		(2) 大学認証評価受審準備体制を強化します。 平成 29 年度の大学認証評価受審準備体制を構築し、強化します。	「基準 3 経営管理と財務」の資料、ﾃﾞｰﾀを整え受審。 JIHEE「適合」評価を取得。
2	教育改革サポート	(1) 教育内容・水準、研究環境・基盤を充実し、整備します。 ｱ「教育ﾋﾞｼﾞｮﾝ」を明確化します。 ｨ 各校園の活性化に対する取組を支援します。 ｳ 各校園間の連携を一層強化します。 Ｉ 自己研鑽支援制度等研修体制を継続し、整備します。 ｵ 研究図書等の充実を図ります。 ｶ 機関ﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘーを充実します。	校園間連携による学園ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ造りの一環として広報ﾂｰﾙ検討。 短期大学専任の募集担当を変更。 IR 担当との連携強化により高等学校や業者とのｺﾝﾀｸﾄを強化。 大学地域連携委員会規程を制定。
3	財務	(1) 学生生徒等納付金の増収を図ります。 ｱ 戦略的授業料体系を検討します。 校園別学費の改定を検討します。 ｨ 学生確保のための奨学金を戦略的に活用します。 (ｱ) 奨学金支給増に向けた規程等を整備します。 (ｨ) 第３号基本金の計画的積極的積み増しに着手します。	ｱ　高等学校の学費改定認可。（平成 30 年度より） ｲ　30 年度に繰り越し（優秀な学生確保に向けた入学時就学制度の見直しを 30 年度に計画。）

No	施策種類	事業計画	実施状況
		(2) 外部資金導入等他の収入の恒常化を図ります。 ｱ 競争的補助金を積極的に確保します。 「構想型補助金」(大学)獲得に向けて体制整備・特別補助申請項目の点検、受給目標項目の設定を実施します。 ｲ 寄付金を戦略的に確保し、寄付金の受入態勢を整備、強化します。 寄付金募集活動を検討、実施します。 ｳ 多様な外部収入を検討します。 (ｱ) 既存事業の活性化策を検討、実施します。 (ｲ) 新規事業の実施を検討します。	ｱ 大学事務室主導で課題抽出。 人事施策、財務施策でﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ。 ｲ 30 年度に繰り越し。 ｳ 水泳教室、幼稚園間の送迎実施により水泳教室の会員数増を企図。
		(3) 人件費比率を抑制します。 ｱ 人件費比率を適正化します。 新人事制度を検討。実施します。	業績連動型期末手当制度の実施可否を次期中計にて検討。 教員考課制度の導入は中止。
		(4) 経営の合理化進展、効率的な財政運営、健在な財務体質の維持を図ります。 ｱ 財務体質の強化、予算ｼｽﾃﾑの整備、財務管理の徹底、ｱｶｳﾝﾀﾋﾞﾘﾃｨのあり方の検討を実施します。 (ｱ) 予算制度の精緻化、決裁権限の見直しと権限委譲の促進を図ります。 (ｲ) 財務情報の発信方法を見直します。 ｲ ｺｽﾄ意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化を図ります。 部門別予算管理を精緻化します。 ｳ 経費を削減します。 (ｱ) 経費削減ﾏｲﾝﾄﾞを醸成します。 (ｲ) 経費ｺﾝﾄﾛｰﾙ手法を検討し、実施します。	ｱ　期初の予算申請制度定着。 決算で想定外支出による差異縮小。 ｲ　大学授業料のﾌｧｸﾀﾘﾝｸﾞ導入完了。 北条図書館運営の外部委託実施。 ｳ　継続実施中。 29 年度決算で物件費総額の抑制。

No	施策種類	事業計画	実施状況
4	教職員の育成	(1) 教職員人材を育成します。 ｱ「教職協業」の考え方を定着させます。 教員と事務職員の交流の機会設定によりｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを強化します。 ｨ FD 活動を実施します。 他大学・本学の状況調査、ｱﾝｹｰﾄ実施、FD 活動内容の再検討を行います。 ｳ SD 活動を実施します。 SD 検討委員会の設置、指名研修制度の実施等を行います。	ｱ　人事、募集、広報活動、保育園設立、トラブル対応等、案件本位で教職員間の協議の場を設定。 ｲ　継続実施。 ｳ　SD 研修会を毎月開催。講師を指名により担当。
5	人事制度全般の見直し・整備	(1) 教職員の定員管理を実施します。 ｱ 教職員の定員を管理します。 採用計画を策定し、各校園の定員を再確認します。 ｨ 年齢構成の適正化を図ります。 予算制度を精緻化し、併せ人員計画を検討します。	一部事務職員の異動完了。 30 年度、事務職員の多能化、図書館運営の効率化、PC 教室運営体制変更に向け異動完了。 アルバイト職員の採用強化に向け募集媒体を多様化。
		(2) 教職員の能力開発の仕組みを検討します。 ｱ 働きがいのある職場を実現します。 新人事制度の中で実施します。	本部、大学・短期大学事務室で一部職員間のﾛｰﾃｰｼｮﾝ実施。
		(3) 給与体系全般を見直します。 ｱ 給与制度を改革します。 事務職員の評価制度を本実施へ移行します。 ｨ 教職員の積極性を引き出す評価制度の導入を検討します。 教員の人事制度を検討します。	事務職員について 28 年度人事評価と昇級・昇格への反映。 29 年度目標設定完了。

No	施策種類	事業計画	実施状況
6	組織・権限	(1) ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ・ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽを強化します。 ｱ 理事会・評議員会機能を強化します。 各理事機能の充実、強化、ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ課題毎の担当理事任命の検討を行います。 ｨ 教学ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽを強化します。 各理事機能の充実、強化、ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ課題毎の担当理事任命の検討を行います。	ｱ　ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄにおける三局面対応について常任理事会の役割を共有。 ｲ　30 年度検討。 担当理事任命は未実施。
		(2) 内部統制の強化・ﾘｽｸ管理機能を強化します。 ｱ 本部組織を見直し、整備します。 ｨ 監事機能、内部監査機能を強化します。	ｱ　募集広報、IR 部門担当を変更・強化。 30 年度における多能化・相互牽制強化を目的とした異動案の策定完了。 図書館業務の外部委託完了。 ｲ　常任理事会、理事会前に事前会議の開催を継続。
		(3) 意思決定の迅速化を図ります。 ｱ 意思決定を迅速化します。 ｨ 権限を明確化します。 ｳ 大学・短大事務組織の一元化を図ります。 Ｉ 業務を根本的に見直します。	ｱ　e 経費による申請制度導入の課題、ﾒﾘｯﾄ・ﾃﾞﾒﾘｯﾄを整理。 ｲ　職務分掌・決裁権限等規程類の整備を完了。 ｳ　認証評価受審に併せ、共通規定を整備。 大学 2 学部の募集要項の一本化を実施。 北条図書館の外部委託に併せ、人事異動実施。 清風学舎図書館と看護学部図書館の統合に向けｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ化と人員配置を完了。 Ｉ　各事務室でｼﾞｮﾌﾞﾛｰﾃｰｼｮﾝ実施。 北条図書館の外部委託完了。

No	施策種類	事業計画	実施状況
7	広報	(1) 戦略的広報体制を確立・展開します。 ｱ 本学のﾌﾞﾗﾝﾄﾞ構築・向上、認知度向上、ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽの戦略的実施、OCW の実施を行います。 ｨ 学内情報の集約化体制を整備します。 ｳ 学内情報を学外へ効果的に発信します。 I 全学広報運営委員会(仮称)の設置を検討します。	大学・短期大学共通の広報・IR ﾁｰﾑを中心に各種施策を順次実施。 30 年度に向け、人員見直しを決定。
		(2) 情報公開を推進します。 ｱ 経営情報・教育情報を積極的に公開します。WEB ｻｲﾄの充実、IR の充実、ﾓﾆﾀｰ制度の実施を行います。	29 年 3 月、法人ｻｲﾄ全面更改。 従来の事業報告書に加え事業計画書、学園新聞を法人ｻｲﾄに掲載。
8	その他	(1) 認証評価等を活用します。 公益財団法人日本高等教育評価機構、一般財団法人短期大学基準協会の認証評価結果、日本私立学校振興・共済事業団の経営分析結果を活用します。	JIHEE「適合」認定。 本部担当の基準 3 経営管理と財務において課題の指摘なし。
		(2) 施設の適切な管理を実施します。 校舎等の長寿命化、長期修繕計画の策定を実施します。	長期修繕計画の策定は未実施。 保育園開設工事、清風学舎改修工事等を実施。
		(3) 危機管理と防災対策を強化します。 ｱ 危機管理ﾏﾆｭｱﾙの精緻化、教職員への徹底を図ります。 ｨ 避難訓練を実施します。	ｱ　校園長会議ﾒﾝﾊﾞｰによる危機管理委員会を毎月開催。 ｲ　未実施。
		(4) ｷｬﾝﾊﾟｽを総合的に整備します。 ｱ 大東市都市計画に基づき小学校・幼稚園のﾌﾟｰﾙ移転計画を策定します。 ｨ 小学校の移転計画に基づき校舎等の再配置計画を策定します。	大東市と継続協議中。

No	施策種類	事業計画	実施状況
		(5) 社会貢献・文化活動を推進します。 ｱ 各校園の研究・活動成果の地域への還元を推進します。 大学 COC 計画を実施します。 ｲ 各校園のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を支援します。 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動を活性化します。	関西城郭ｻﾐｯﾄ 2017 開催。 （摂河泉地域文化研究所、大東市、四條畷市と共催） 大東市「介護の日」ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙに高等学校のﾌﾞﾗｽﾊﾞﾝﾄﾞ部参加ほか。
		(6) 同窓会等との連携を強化します。 同窓会活動を活性化します。	ﾎｰﾑｶﾐﾝｸﾞﾃﾞｰ開催。 同日、講演会開催。（地域住民等も参加） 同窓会への財政的支援実施。

大学 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部

No	施策種類	事業計画	自己評価
1	重点取組事項	(1) 建学の精神、教育理念の浸透を図ります。 各学年のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝやｶﾞｲﾀﾞﾝｽにおいて、周知徹底します。	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝやｶﾞｲﾀﾞﾝｽの機会を活用し周知徹底。
		(2) 大学機関別認証評価へ対応します。 認証評価受審に備え、万全の準備を行い、「適合」を獲得します。	10月31日~11月1日実地調査受審。日本高等教育評価機構の大学評価基準に「適合」の認定証受領(3月6日)。
		(3) 入学定員を確保します。 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部は 80 名(PT:40 名、OT:40 名)を確保します。	新入生は 65 名(PT41 名、OT24 名)。入学定員充足率…81%(PT103%、OT60%)
		(4) 大学のﾌﾞﾗﾝﾄﾞを構築します。 ｱ 学部横断の PT を作り、大学のﾌﾞﾗﾝﾄﾞ戦略を構築し実行します。 ｨ 総合研究所の提供機能(ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ機能、ｱｳﾄﾊﾞｳﾝﾄﾞ機能、ｻﾎﾟｰﾄ機能等)のｺﾝｾﾌﾟﾄを固めます。また、地域包括ｹｱｼｽﾃﾑ構築の対外窓口として位置付けます。	ｱ ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑは未組成、来季の継続課題。 ｨ 30 年 4 月、ﾊﾞｰﾁｬﾙ組織である「健康科学研究所」を発足。若手の研究支援資金の仕組も創設し、研究推進しやすい環境を整備。
2	教育内容・水準の充実	(1) 新ｶﾘｷｭﾗﾑﾎﾟﾘｼｰを適用します。 新ｶﾘｷｭﾗﾑﾎﾟﾘｼｰに則り、各ｶﾘｷｭﾗﾑを検討し、必要に応じて修正手続きを進めます。	新ｶﾘｷｭﾗﾑ(32 年度より運用予定)に関する「厚労省指定規則」の概要発表(30 年度予定)後、直ちに着手。
		(2) 医療人として必要な教養・倫理性・人間力と専門性・技術を兼ね備えた人材を育成します。 ｱ 思考力、判断力、表現力、主体性を持ち協働して学ぶ能力を育成するため、教養、基礎科目の充実を検討します。 ｨ 人的資源の有効活用や教員・学生の学部間交流を促すため「教養教育検討会議」で教養教育の在り方検討を継続します。 ｳ 専門的知識や技術を効果的に修得し、臨床対応力のある人材を育成します。	ｱ 看護学部とも連携しながら、ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ構築ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑで継続検討。 ｨ30 年度から清風 5F 教室が利用可能となるよう整備。「教養教育検討会議」で検討中の教養科目の看護学部との共同実施実現に寄与。 ｳ ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化に対応するｵｰｽﾄﾗﾘｱ海外実習実施(7 名参加、教員 1 名)。OSCE により臨床能力を客観的に評価。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		Ⅰ 国家資格を取得します。	Ⅰ 29 年度国家試験実績 PT…38 名/43 名(合格率 88.4%、全国 81.4%) OT…26 名/30 名(合格率 86.7%、全国 77.6%)
		(3) FD 活動の拡充と教員教育力の向上を図ります。 ｱ 前後期に、新方式の「授業評価ｱﾝｹｰﾄ」の結果分析により、問題点を洗い出して対策を立案、PDCA ｻｲｸﾙを回し、授業内容を継続的に改善します。 ｲ 高等教育の最先端ｽｷﾙに詳しい外部講師による FD 研修会の定期的開催や外部 FD 研修への積極的参加と情報共有化により、「教育力」の向上を図ります。 ｳ 毎年度末、学部長と専攻長を中心として、非常勤講師を含む全教員の教育力の確認と助言を行い、教育水準の改善と標準化を図ります。	ｱ 前・後期ｱﾝｹｰﾄ結果を各教員にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ。各教員が内容を確認し、来年度の授業改善のために活用。 ｲ ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部主催の FD 研修会は未開催。看護学部主催の FD・SD 研修会(3 月 30 日)に 7 名が参加。 ｳ 3 月 17 日、非常勤教員対象の講師会を開催(10 名参加)。学年暦、実習、就職活動、国家試験動向等を説明。
		(4) 学生の学業向上を支援します。 ｱ 新入学生と保護者向けに、「入学時の不安・ｽﾄﾚｽ等に関するｱﾝｹｰﾄ」(四條畷学園臨床心理研究所(ICP)と協力)を実施し、個別指導を行い、学生生活不適合や学業成績不振による退学防止につなげます。 ｲ 中途退学者数を削減するため、GPA 推移の経緯や落とすと後年負担が大きくなる必須科目の特定により、中途脱落を事前に予知できるｱﾗｰﾑ等の仕組みを構築します。 ｳ CAP 制を導入し、更にﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞとｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟの導入を検討します。	ｱ 例年通り実施。1 年生退学者は 5 名(PT1、OT 4)から 3 名(PT2、OT1)。 ｲ 関連ﾃﾞｰﾀを教員に還元し退学者減少に努めましたが、退学者数は 25 名→31 名(PT18、OT13)に増加。今後も課題。 ｳ 年間 50 単位の CAP 制導入済。「ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰとｶﾘｷｭﾗﾑの関係表」や「ｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟ」を作成し、学校案内に記載。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(5) 基礎学力を強化します。 新ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰで期待された学力を持って入学できるよう入学前教育として「なわてﾄﾞﾘﾙ」を活用する。また、入学予定者の学力格差を考慮した科目の導入も検討します。	入学前教育として「なわてﾄﾞﾘﾙ」を 1 年間継続。より効果を上げるための改善策を継続検討中。
3	研究活動の活性化	(1) 創立時に導入した研究機器が経年劣化や技術革新による更新時期を迎えていることから、本学園財政事情を勘案した合理的な更新計画を策定します。	更新優先度の高い機器については、30 年度予算に反映。
		(2) 各教員が研究成果を学会や主要雑誌に積極的に発表し、自身の研究業績の蓄積だけでなく、研究機関としての本学ﾚﾋﾟｭﾃｰｼｮﾝの向上を図り、引いては、高等教育機関としてのﾌﾞﾗﾝﾄﾞ力向上につなげます。	内外有力雑誌への発表増加…本学 HP 公開 10 件。
		(3) 外部の競争的研究資金導入に、引き続き積極的に挑戦するとともに、上位ﾗﾝｷﾝｸﾞでの不採択者に対する支援等を検討します。	大阪認知症研究会助成 1 名:60 万円。 ﾄﾖﾀ財団 1 名(共同):730 万円。 30 年度科研費:応募 3 件のうち 1 件採択。 30 年度外部助成金獲得:3 名。 -JR 西日本あんしん社会財団 2 名 -日本私立学校振興・共済事業団 1 名 30 年 4 月、「若手研究支援資金」創設。
		(4) ｽﾎﾟｰﾂ活動相談・指導室の整備・運用を検討します。	29 年 4 月、ｽﾎﾟｰﾂ活動相談・指導室の運用開始。
4	教育・研究基盤の整備	(1) 学内教育環境を整備します。 ｱ Word を使ったﾍﾟｰﾊﾟｰ作成、Power Point でのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ資料作成、Excel を使った分析等に関連したﾊﾟｿｺﾝｽｷﾙ指導(Q&A)の時間を拡大し、学生の利便性を高めます。	ｱ ﾊﾟｿｺﾝ教室の自習利用時間を学舎ｵｰﾌﾟﾝ時間全般(午後 9 時)に拡大し、利便性を向上。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		ｨ 留年のきっかけとなる可能性のある科目の授業映像の UNIPA 配信の対象を「解剖学」のみから「運動学」「評価学」「疾患治療学(OT)」「運動療法学(PT)」に拡大できないか検討します。 ｳ 学修支援室の整備･運用を検討します。	ｨ「運動学」「評価学」「運動器系障害治療学(OT)」「運動療法学(PT)に拡大。 ｳ 私立大学等改革総合支援事業「ﾀｲﾌﾟ 1」不採択のため、来年度再度検討。
		(2) 図書館利用環境を整備します。 ｱ 新たに整備した図書館機能のﾒﾘｯﾄや利用方法を学生や教員に説明し、利用度を高めます。 ｨ 電子書籍を中心とした蔵書を充実し、また、ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞとして利用に適するよう環境を整備します。 ｳ「機関ﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘ」を活用した「学術論文」や「研究成果」等の学術情報発信を推進します。	ｱ ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ等で丁寧に説明。30 年度より北条図書館運営を専門業者に外部委託し機能改善を進める。 ｨ 看護学部図書館のﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ稼働率高く、北条学舎の空き教室の活用等を検討中。 ｳ 平成 29 年度紀要を機関ﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘに掲載。
		(3) 学舎を整備します。 ｱ WiFi ﾙｰﾀｰの増加による ICT 環境の改善や演習室にｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸやﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝに適した電子ﾎﾞｰﾄﾞ設置、ﾘﾒﾃﾞｨｱﾙ教育や能力別学修に効果的な「e-Learning」を拡大できるﾊﾟｿｺﾝ数の増加等 ICT 環境を整備します。 ｨ「学生の声ﾎﾞｯｸｽ」を設置し、学生からの意見、要望を聴取し、学舎整備に活用します。	ｱ 10 月 WiFi ﾙｰﾀｰを 4F ﾗｳﾝｼﾞに増設。 ｨ 月 1 回のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを行うとともに、対応可能な要望について順次実施中。 学生ﾗｳﾝｼﾞの WiFi 強化、電子ﾚﾝｼﾞ・湯沸かしﾎﾟｯﾄ追加、ﾊﾟｿｺﾝ自習室のﾌﾟﾘﾝﾀｰを交換、休憩ｽﾍﾟｰｽの長椅子追加他。
		(4) 補助金確保により学修環境を整備します。 私立大学等改革総合支援事業「ﾀｲﾌﾟ 1」を早期に獲得できるよう整備します。	前年度より評価ﾎﾟｲﾝﾄは大幅に増加したが、不採択(63 点、採択は 79 点以上)。
5	社会貢献･文化活動の推進	(1) 市民公開講座を開催します。 地域包括ｹｱｼｽﾃﾑ、高齢者医療、生活慣習病等の地域住民の関心が高いﾃｰﾏにﾌｫｰｶｽしたﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部と看護学部のｼﾞｮｲﾝﾄによる講座を半年ごとに開催します。	(1) 7 月 1 日実施、参加者 51 名。 ﾃｰﾏ:いきいき生きる~生活習慣のすすめ (ﾘﾊ:野口先生、看護:中村先生)

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(2) 四條畷市と連携します。 ｱ「なわてふれあい商工祭り」に引き続き参加します。 ｨ 四條畷市とのさらなる連携を検討します。	ｱ 学園祭と重なり、やむを得ず不参加.。 ｨ 継続検討。
		(3) 大東市と連携します。 「介助犬のひろば in 大東」での身体障碍者補助犬の啓発活動への教員参加とｽﾏｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ事業へ学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの派遣等を行います。	12 月 3 日、川村義肢株式会社にて実施、本学教員・学生がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして参加。 12 月、学生が作成協力した「ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾏｯﾌﾟ住道版」が野崎版に続き完成。
		(4) 模擬授業、ｻﾏｰｾﾐﾅｰを実施します。 ｱ 大阪府下の高校を中心に模擬授業を積極的に実施します。(約 20 校)。 ｨ 大学ｺﾝｿｰｼｱﾑとの連携により、中学生向けｾﾐﾅｰに参加します。(ﾘﾊ 1 名、看護 1 名)。	ｱ ﾘﾊ学部は 13 校で実施。 ｨ 8 月 9 日実施(ﾘﾊ OT:亀井先生)。
		(5)施設を開放します。 日本理学療法士協会、大阪府理学療法士協会、日本作業療法士協会、大阪府作業療法士協会に会場提供し、他機関から要請があれば積極的に対応します。	OT 大阪支部幹事会に看護会議室を提供。 日本理学療法士協会主催の PNF 研修実施(6 月、3 月)。
6	進路支援・就職支援・卒業生支援	(1) 学生の進路を支援します。 少人数ｸﾗｽ編成、担任制、ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ制、四條畷学園臨床心理研究所(I.C.P)、ｵﾌｨｽｱﾜｰの連動を高め、より効果的な学生支援を行います。	連動性を高め学生支援を実施したが、退学率は依然高く、継続的な改善努力が必要。
		(2) 就職の支援を強化します。 ｱ 国家試験対策講座の内容を従来の集合講座中心から能力別個別対応の要素が高い対策講座を検討します。 ｨ 1,2 年生を対象として、社会人として必要な、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力、問題発見・解決能力、自ら学び続ける能力の重要性を意識させる就職ｾﾐﾅｰ等を開催します。	ｱ PT:12 月以降、最低 2 限/週にて成績下位学生(12~15 名)に対し PT 専攻全教員にて個人別対策講座を実施。 ｨ 実習ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの中で効果的に実施。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(3) 卒業生を支援します。 ｱ 国家試験を再受験する卒業生に対して、研究生制度を設けており、基礎講座、集中講座の受講や、個別指導等の受験対策、図書館等大学施設の利用、模試への参加、出願手続きの支援など、該当者を支援します。 ｨ 卒業生向け「学術講演会」や大学独自のﾎｰﾑｶﾐﾝｸﾞﾃﾞｲの開催を定例化し、卒業生の組織を強化します。	ｱ 今年度はOTの研究生2名が国家試験を受験し、うち1名が合格。 ｨ 卒業生対象の理学療法分科会を1回開催(2月)、作業療法分科会を3回開催(6月、10月、3月)。
7	学生募集対策	(1) 学生募集力を強化します。 ｱ 本学ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、Web、ﾀﾞｲﾚｸﾄﾒｰﾙ等の媒体をすべて活用し、ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ開催日や内容の高校生に対する事前周知を徹底します。 ｨ 本学ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞは週に1件以上のﾆｭｰｽ掲載を原則とし、閲覧頻度が高まるように誘導します。また、平成30年度の再ﾘﾆｭｰｱﾙの必要性を検討します。 ｳ ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽの内容充実やｱｻｰﾃｨﾌﾞ手法の導入により、ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ参加の出願歩留まり率を向上させます。 Ⅰ 教職員による高校への訪問頻度だけでなく、ｷｰﾊﾟｰｿﾝへの面談精度、説明内容、資料等を向上し、認知度をｱｯﾌﾟします。	ｱ 広報課を1名増員し、多様な媒体を効果的に組み合わせ活用。 ｨ ｲﾍﾞﾝﾄ、教員のｼﾞｬｰﾅﾙ投稿、学会発表、講演等と積極的に公開。 →ﾘﾊ40件、看護29件、共通49件 ｳ ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ参加者のうち出願者数PT:32名→52名、OT:18名→25名、何れも改善。さらに、参加者の出願率の歩留り率をIRで分析。歩留り率を向上するための具体的方法について検討中。 ⅠIR担当者の分析資料(受験実績、卒業生、偏差値等)に基づき、効率的･効果的な高校訪問を実施。 29年6月「夢ﾅﾋﾞﾗｲﾌﾞ」にPT･OT･看護の教員各1名が高校1･2年生(計313名)に模擬授業、また広報課が個別相談ﾌﾞｰｽで対応。 OT…1名。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		ｵ ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽに替わるｳｨｰｸﾃﾞｲ･ｷｬﾝﾊﾟｽ･ｳﾞｨｼﾞｯﾄを継続開催し、受験希望者の要望に沿うような情報提供を強化します。 ｶ 学園中学、高校との高大連携を強化し、内部進学数の増加を図ります。	ｵ ｳｨｰｸﾃﾞｲ･ｷｬﾝﾊﾟｽ･ｳﾞｨｼﾞｯﾄを 2 年連続実施し 20 名が参加(前年 13 名)し、14 名が受験。(看護:16 名参加し、7 名受験) ｶ 説明会等を通じて学園高校との高大連携を強化。合格者 PT…1 名、
		(2) 入試方法を見直しし、改善します。 ｱ 受験生の利便性と本学事務の効率化の観点から「ﾈｯﾄ出願」の採用を検討します。 ｨ 受験生が減少している指定校入試、AO 入試、ｾﾝﾀｰ入試利用を中心として、競合他校の実施状況を分析し、入試日程や方法等の改善策を検討します。	ｱ 現状の志願者数を勘案すると導入ﾒﾘｯﾄ小さく当面不採用決定。 ｨ 来年度の入試日程確定済…AO 入試の願書受付期間を拡大。
8	災害対策等への取組	(1) ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ管理体制を整備します。 教職員が研究不正に関する e-Learning を定期的に受講し認識を新たにするなど、継続的にｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ教育を実施します。	全員実施済。
		(2) ﾘｽｸ管理体制を強化します。 ｱ 業務ﾐｽやﾄﾗﾌﾞﾙに係るﾋﾔﾘ･ﾊｯﾄ報告の励行により、問題事象のﾘｽｸの所在や防止方法を共有し、ﾘｽｸ管理体制を強化します。 ｨ 本部と連携して、ｻｲﾊﾞｰ攻撃やｳｨﾙｽ感染ﾘｽｸに対する教職員のﾏｲﾝﾄﾞを高めます。	ｱ ﾋﾔﾘﾊｯﾄ活用(今年度 7 件)、顕在化したﾘｽｸ情報の共有や潜在的ﾘｽｸ対策に活用。 ｨ 偽ﾒｰﾙﾃｽﾄ実施済。法人本部作成資料「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｳｨﾙｽ」による勉強会実施。
		(3) 危機管理体制を強化します。 ｱ 防災訓練(含む AED 訓練)を実施し、有効性について振り返りを行い、必要に応じてﾏﾆｭｱﾙを改定します。 ｨ 裏山の崖崩れに備えた 2 方向避難経路や近隣住民との連携を含む「防災ﾏﾆｭｱﾙ」に改定します。 ｳ 本学は受動喫煙防止のため「全面禁煙宣言」しており、禁煙ｾﾐﾅｰによる啓発等により、大学関係者の禁煙を推進します。	ｱ 防災訓練は、9 月 8 日実施済。ﾏﾆｭｱﾙの改定は今後の継続課題。 ｨ 継続検討中。 ｳ 学生に周知徹底。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		Ｉ 防犯ｷｬﾝﾊﾟｽﾈｯﾄﾜｰｸ大阪(大阪府警)の定期研修会に参加するなど、警察署との連携を強化します。	Ｉ 定期研修会に参加等により連携強化。
9	その他	(1) 事務を効率化します。 ｱ 事務部門では、自由な意見交換により、前例にとらわれず、事務改善を継続するｶﾙﾁｬｰを根付かせます。 ｨ 属人的な業務分担を排除し、全ての業務を複数の事務員が担当できる体制を構築します。	ｱ 科研費ﾌﾟﾛを導入し支払事務を効率化。 両学部事務室で朝礼を導入。 毎週金曜日実施の両学部課長以上の会議で情報を共有化。 ｨ 30 年度に事務職員のﾛｰﾃｰｼｮﾝを実施。
		(2) SD 活動を推進します。 教職員が外部の SD 啓発研修会等に積極的に参加し、ﾋｱﾘﾝｸﾞした最新情報を教職員間で共有し、事務ﾌﾟﾛｾｽの改善につなげます。	奨学金をはじめとする外部の研修会に積極的に参加し、出張報告等の回覧により、最新情報を共有化。
		(3) 大学 2 学部、短大との相互連携を進め、相乗効果を加速化します。 ｱ 相互情報提供を密にし、業務改善を効率化します。 ｨ 共用施設の効率的な共同使用推進や、規程や業務方法の共通化により、経営資源の有効活用を図ります。 ｳ 教職員の勉強会や研修の共通化により、問題認識や取り組みを統一します。	ｱ 適宜ﾐｰﾃｨﾝｸﾞを実施し、連携を強化。 ｨ 30 年 4 月より本学部の教養科目の一部を清風学舎 5F で実施。 清風 1F 短大ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰで大学求人情報登録を行い事務効率化。 ｳ 10 月、倫理教育実施済。

大学 看護学部

No	施策種類	事業計画	自己評価
1	重点取組事項	(1) 建学の精神、教育理念の浸透を図ります。 各学年のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝやｶﾞｲﾀﾞﾝｽにおいて、周知徹底します。	学期開始時のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝや定期試験終了時の教育ｶﾞｲﾀﾞﾝｽにおいて、学生便覧を用いて学生に周知徹底。
		(2) 平成 29 年度日本高等教育評価機構による認証評価受審に向けて活動します。 ｱ 認証評価項目に基づく評価書を整備します。 ｲ 認証評価受審実地調査に向けて準備します。 ｳ 学園･大学･学部各種委員会を整備します。 Ｉ 各種委員会報告会を開催します。(年度末) ｵ 教員自己評価ならびに学部長面談を実施します。(年度末)	ｱ 学部担当部分は学科長が取りまとめ、委員長である副学長と連携し作成。 ｲ 学部独自資料(「各委員会記録」、「倫理関連特別講義」「ｶﾘｷｭﾗﾑﾁｪｯｸｼｰﾄ」等)」を準備し受審。 ｳ 大学共通の委員会設置、委員長任命、委員会規程整備を実施。 Ｉ 今年度は年度末の報告会を開催せず、各委員会報告書を回覧し周知。 ｵ 修正後の教員自己評価書に基づき、3 月末にｴﾌｫｰﾄを修正したものを提出。
		(3) ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ力を強化します。 医療系の大学としての特色を強化します。	認証評価の結果を踏まえ、来期の継続課題。
		(4) 教員組織体制を整備します。 ｱ 教員公募により人材を確保します。 ｲ 非常勤講師を有効活用します。 ｳ 実習助手を確保します。	ｱ 29 年 7 月、老年看護学講師 1 名(特任)、基礎看護学助教 1 名を採用。11 月から JREC で老年看護学講師 1 名(病気退職)公募中。 ｲ 専任教員の欠員(精神看護学概論、基礎看護学分野の科目、老年看護学分野の科目)を非常勤講師で補充。 ｳ 領域実習補助として成人看護学実習Ⅱ2 名、老年看護学実習Ⅰ1~2 名、母性看護学実習 1 名、基礎看護学実習ⅠとⅡに各 1 名を非常勤で採用。施設から 1 病棟 1 名の教員配置要望があり一層の確保が必要。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(5) 看護学部教育・研究・実践ｾﾝﾀｰ(仮称)設置に向けて準備します。 ｱ 学部にﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟを発足します。 ｨ ｾﾝﾀｰ構想案を策定します。	ｱ,ｲ 基礎看護学の教員をﾘｰﾀﾞｰとするﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟを発足し、ｾﾝﾀｰ構想案を検討中。
		(6) 国家試験対策支援室を設立します。 非常勤専従ｽﾀｯﾌによる国家試験対策を実施します。	1～3 年生まで、「模擬試験→解説ｾﾐﾅｰ→復習課題学習→再試験」を行ない、解剖生理をはじめとする疾患の基礎知識を強化。
2	教育・研究の充実	(1) 看護学における各専門領域間の連携を図ります。-FD 研修会で各専門領域の教育内容を共有します。	3 年生の各看護学実習開始に際し、各実習要項に基づいて、教育内容や方法を共有。
		(2) 各科目の授業到達目標とﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰを明確化します。-ｶﾘｷｭﾗﾑﾁｪｯｸﾘｽﾄに基づき、DP 達成のために各授業科目の到達目標と対比します。	「教養科目」「専門基礎科目」の到達目標とﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰとの関連性をｶﾘｷｭﾗﾑﾁｪｯｸﾘｽﾄで明確化。全教科目のﾁｪｯｸｼｰﾄをとりまとめた冊子を作成。
		(3) 教育力を強化します。 ｱ 教員個々人の教育力ｱｯﾌﾟを支援します。(研修会、教員相互の授業参画等) ｨ 学生による授業評価への対応を行います。(UNIPA 上での回答およびｼﾗﾊﾞｽへ到達目標を記入)	ｱ 講師・助教の若手教員が中心に外部研修会に参加し、学内研修会で内容を共有化。 ｨ 授業評価の分析方法、結果、授業改善を UNIPA で学生にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ。 また、FD・SD 研修会で授業評価の効果的活用方法を検討。
		(4) 学修支援対策を強化します。 ｱ 1 年次対象の補習週間を開催します。(後期定期試験終了後) ｨ 2 年次対象の前期末・後期末補習を実施します。	ｱ 1 年生のまとめや 2 年生の準備のために 1 週間の特別講義週間を設定し、1 年生全員に講義・演習や低学年模試、ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰｸﾞﾙｰﾌﾟ代表と学部長・学科長懇談で構成。 ｨ 科目担当者や責任者が、単元目標達成困難学生に対し、適宜補習による支援を実施。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(5) 研究活動を推進します。 ｱ 競争的研究資金獲得を推進します。 ｨ 研究倫理委員会への申請を推進します。 ｳ 看護学部研究誌創刊号を発行します。 Ｉ 外部査読の導入により研究の質を担保します。	 ｱ 30 年度科研費は５件応募中３件採択。 ｨ 今年度は７件の審査を行い承認。 ｳ「四條畷大学看護ｼﾞｬｰﾅﾙ」を発刊。 Ｉ ２名の査読者で行い、そのうち１名は外部に査読を依頼することで質を担保。
3	教育･研究環境の充実	(1) 学習環境を整備します。 ｱ 図書館利用を推進します。(閉館時間等) ｨ 実習ｸﾞﾙｰﾌﾟ用小教室を確保します。	ｱ 領域別看護学実習開始後、図書館利用者数が増加。30 年度より平日は午後９時に延長。 ｨ 30 年度より清風学舎５階の活用を準備。
		(2) 臨地実習施設を開拓し、連携を強化します。 ｱ 臨地実習施設(管理者)との連絡協議会を開催します。 ｨ 臨地実習施設(各病棟単位)との連絡調整会を実施します。 ｳ 新規の臨地実習施設を開拓します。	 ｱ 実習施設開催の連絡会→担当領域の教員が参加。 連絡協議会→複数の専門領域が関与する場合は委員長と関連領域教員、単独の場合は各担当教員が実施。 ｨ 実習施設に応じて連絡調整会を開催。学習環境の平等性や確実な実習目標達成のため、科目責任者･担当者が実習前･中に病院間調整を行い、実習後は病院ごとに振り返りと次年度課題を病院と相互確認。 ｳ 学年の学習効果･利便性等を勘案して、新規実習施設開拓を機会あるごとに実施。 Ｉ 臨地実習における学生の学習効果を高めるため、実習病院関係者が本学での実際の教育を見学する機会を設定（１施設６名参加）。
		(3) 教育ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録者を活用します。 ｱ ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録者数の増加を図ります。	ｱ 市民公開講座でﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録を依頼。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		ｨ 授業ならびに自己ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞでの活用を推進します。	ｨ 1 年生…春休みに基本的な看護援助技術(ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ観察とｱｾｽﾒﾝﾄ、車いす移動)の自主ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ。 2 年生…「基礎看護援助論Ⅳ」で、学生が計画立案した日常生活援助技術を実施・評価する複合演習で 2 日間延べ 17 名のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱが患者役。 また、2 年間におけるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ参加型の援助技術教育の実績を「四條畷看護ｼﾞｬｰﾅﾙ」創刊号に報告。
		(4) 実験室を確保します。 総合研究所の策定内で検討します。	北条学舎の空研究室の活用を含め検討中。
		(5) 学舎修繕等を実施します。 ｱ 破損箇所の修繕および補強を実施します。 ｨ 男子ﾛｯｶｰ室を拡大します。 ｳ 学年進行に伴うﾗｳﾝｼﾞ等の食事・休憩場所を確保します。	ｱ 特に対象なし。 ｨ 男子ﾛｯｶｰ拡大済。但し、今後男子比率が高まると更なる拡大が必要。 ｳ 清風学舎 5F 学生ﾗｳﾝｼﾞを利用可能としたが、さらにｽﾍﾟｰｽ確保が必要。
4	学生支援	(1) 学生生活支援を強化します。 ｱ 入学時の不安・ｽﾄﾚｽ等に関するｱﾝｹｰﾄを実施します。 ｨ 学生満足度調査を実施します。(1 年次対象、年度末実施) ｳ ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰｸﾞﾙｰﾌﾟごとの学生代表と学部長及び学科長との懇談会を実施します。	ｱ 新入生ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ時に実施。必要に応じて　ICP 等と連携。 ｨ 学生満足度調査(1 年生 2 月実施)の結果では、ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ制度やｵﾌｨｽｱﾜｰの利用状況等が前年度比低下。調査実施時期の影響も考えられるので、次年度から 2 年生 7 月に実施し、更なる実態把握を進める。 ｳ 1 月(1 年生)3 月(2・3 年生)に開催。学生環境に関する要望やよりよい学生生活に向けた活発な意見交換・提案があり、30 年度入学直後、入学生同士の交流会など実施予定。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		Ⅰ 保護者・保証人対象の教育懇談会を実施します。	Ⅰ 各学年に応じたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑで保証人対象の教育育懇談会を実施。 1、2年生対象(8月、40名)…全体会では、教務委員長等から学習状況、基礎看護学領域の教員から実習の状況の紹介、個別面談では学生個々の課題を検討。 3年生対象(3月、全体会31名、個人面談20名)…国家試験対策、就職が中心で、一層の連携が必要であることを確認。
		(2) ｷｬﾘｱ教育を推進します。 ｱ 保健師、助産師に関する情報を提供します。(進学相談含む) ｨ ﾗｲﾌﾜｰｸﾊﾞﾗﾝｽのｲﾒｰｼﾞを促進します。	ｱ 3年前期ｶﾞｲﾀﾞﾝｽで、就職活動ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝと合わせ、保健師・助産師・進学に関する相談窓口を説明。募集要項は図書館就職ｺｰﾅｰ(30年度は5Fﾗｳﾝｼﾞ)で閲覧可。 ｨ 1年生就職ｶﾞｲﾀﾞﾝｽや就職先選定時、ﾗｲﾌﾜｰｸﾊﾞﾗﾝｽも視野に選定を働きかけ。
		(3) 国家試験支援を強化します。 ｱ 各ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰｸﾞﾙｰﾌﾟの学習委員(学生)と国家試験対策委員会との協働による対策を実施します。 ｨ 模擬試験を実施し、対応を強化します。	ｱ,ｲ 日々の学習を優先。 1月~3月に各学年で模擬試験を実施し、成績不良者に再試験を実施することで、学習促進と意識改革を図った。
		(4) 休学者への対応を強化します。 ｱ ICP とｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ教員との連携を図ります。 ｨ GPA低値の学生への早期介入を実施します。 ｳ 遅刻や欠席の目立った学生への個別対応を実施します。 Ⅰ 保護者とｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ教員の連携を図ります。	ｱ 各学年のｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ担当学生一覧表をICPと共有し、連絡体制を向上。 ｨ ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ教員が担当学生のGPAを把握したうえで面接実施。 ｳ 事務より欠席者を連絡、連続欠席の場合はｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰが学生呼び出し早めの対応。評価に関連する場合は学科長に報告。 Ⅰ 退学・休学懸念学生には、学生から情報や許可を得た後、ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰが保護者に連絡(時には面談)。経過は学科長に逐一報告。

No	施策種類	事業計画	自己評価
5	社会貢献・文化活動の推進	(1) 地域連携・貢献事業を推進します。 ｱ ｼﾘｰｽﾞ「生活習慣のすすめ第三弾」市民公開講座を実施します。(3 年計画) ｨ 大阪府社会福祉事業団地域公益事業いっぷくｽﾃｰｼｮﾝ「よろか」における健康教室を担当します。(1 回/月) ｳ 大東・四條畷医療・介護連携推進研修会と連携し、協力します。 Ⅰ 実習施設に対して教員を講師として派遣します。	ｱ 第 16 回市民公開講座をﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部と共同開催し約 50 名が参加。ﾃｰﾏは「共に暮らす地域の力」。事後ｱﾝｹｰﾄ結果は「生活習慣の見直しに大変役にたった」等好評。今後の希望ﾃｰﾏは認知症予防や介護。 ｨ 本年度 10 回開催し参加者増加。内容は、「熱中症対策」「排泄について」「骨そしょう症」等、健康に関するもの。 ｳ 行政関係者による「大東・四條畷市を知ろう」特別講義(ｻｰﾃｨﾎｰﾙ)に 2 回参加。 Ⅰ 済生会中津病院、東大阪医療ｾﾝﾀｰに講師を派遣。
		(2) 中学、高校との連携を推進します。 ｱ 大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ大阪との連携による事業を担当します。(大阪中学生ｻﾏｰｾﾐﾅｰおよび新事業) ｨ 四條畷学園高校との高大連携活動を推進します。	ｱ 今年度は大学ﾌｪｽﾀの開催中止。 ｨ 2 年生…[第 1 回]6 月 15 日(26 名+引率教員 2 名)学部紹介、ﾐﾆ講義、演習、施設見学。[第 2 回]10 月 12 日(14 名)授業見学、在学生(1 年生)との交流(座談会)実施。 1 年生…1 月 28 日(30 名)看護職の説明。
6	入試・広報強化	(1) 安定した入学定員を確保します。 ｱ 重点校への出前講義を実施します。 ｨ 高校の低学年に対して看護学部を PR します。 ｳ HP で教員による出前講義のﾃｰﾏをｱﾋﾟｰﾙします。	ｱ,ｨ 専任教員による高校での模擬授業&職業紹介については、実績校を重点に計 16 校を対象に実施。2 年生対象に模擬授業、1 年生対象に看護学部を PR. ｳ 未実施、継続検討中。
		(2) 学生募集戦略を強化します。 ｱ 資料請求等のあった高校生への DM 対応を強化します。 ｨ 入学生の入試別 GPA、受験実績等のﾃﾞｰﾀに基づく重点校の選別を実施します。	ｱ OC,入試対策講座等に合わせ計 9 回実施。 ｨ 広報課・IR 室がﾃﾞｰﾀ作成・分析を実施し、高校訪問等の資料とした。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		ｳ HPの内容充実とｽﾋﾟｰﾃﾞｨな情報発信に努めます。 Ⅰ 受験実績のある高校を中心とした高校訪問を強化します。 ｵ OCﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの学生参画を図ります。(体験型授業の導入) ｶ WCVを継続的に実施します。 ｷ 業者開催事業「夢ﾅﾋﾞ」等へ参加します。	ｳ 演習風景、授業紹介等に関してﾆｭｰｽを発信(看護29件、ﾘﾊ40件、共通49件)。手順書を作成し、教職員から広報素材募集。 Ⅰ 専任教員が各4~5校を分担、大阪、京都、兵庫、奈良の計91校に対して実施。 ｵ 在学生による大学(授業等含む)説明や、体験型学生交流を導入。「説明がわかりやすかった」「交流できて楽しかった」等々好評。 ｶ WCVは計16名の参加(申込者25名)。ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ-講義受講(「ｽﾄﾚｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」)-学舎見学-振り返りﾜｰｸを通じて「大学についての見識が深められた」、「OCでは分からなかったことが分かった」等の講評。 ｷ 「病気と共にその人らしく生活するための支援」(成人看護領域)と題して講義を実施。
		(3) 入試方法を見直します。 ｱ 入試科目(理科)の見直しを検討します。 ｲ 指定校推薦の見直しを検討します。	 ｱ 31年度入試では、受験実績の少ない「化学」の廃止決定。 ｲ 30年度指定校は、1減3増(新規)の計24校(前年22校)。
7	その他	(1) 災害対策に取組みます。 ｱ 学部内防災ﾙｰﾙを強化します。 ｲ 幼稚園と合同の訓練を実施します。	ｱ 点呼にかかわるﾌﾛｰｼｰﾄの作成、安否確認のための一覧表の作成、学生の環境委員の役割の明確化などの周知徹底を図った。 ｲ 11月に合同実施。昨年度より迅速な避難が可能となった。当日欠席学生には、防災意識に対するﾚﾎﾟｰﾄ提出を課す等対応。

短期大学

No	施策種類	事業計画	自己評価
1	重点取組事項	(1) 効果的な募集活動により、募集定員180 名(保育 100 名、ﾗｲﾌ 80 名)以上の入学者を安定的に確保します。	募集定員 181 名(保育 111 名、ﾗｲﾌ 70 名)入学。
		(2)【ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科】 平成 30 年度入学生に対する募集活動や広報活動等を通じて、受験生・保護者、および高校教員に対し、ｶﾘｷｭﾗﾑ再構築の意義(※)、内容、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ等の周知を図ります。 ※学びの意識とともに将来の就職までの意識を持った入学者を増やし、学ぶ喜びを体感させ、より早い段階から進路活動のｻﾎﾟｰﾄを行う等、教育の質の向上に努めます。 【ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科 総合福祉ｺｰｽ】 全在学生の卒業、進路確定に注力するとともに、当該ｺｰｽに関連した設備等の経営資源の有効活用を検討します。	【ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科】 平成 30 年度入学生に対する募集活動や広報活動等を通じて、受験生・保護者、および高校教員に対し、ｶﾘｷｭﾗﾑの改編内容等について説明、周知に努めた。 一方、HP の改編、広報活動が不十分であった箇所が見られ、改善課題となった。 【ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科 総合福祉ｺｰｽ】 在学生 8 名の卒業および前期卒業生 2 名を含めた全員が、介護分野への就職となった。今回初めて実施された介護福祉士国家試験受験者は 7 名が受験、5 名が合格。当ｺｰｽ閉鎖後の備品等は、保育学科・大学へ引継ぎ、学園全体で活用することとした。
		(3) 保育学科は、ﾋﾟｱﾉのﾏﾝﾂｰﾏﾝ指導等の「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」等の特色を生かし、魅力ある教育をめざし、競合他校との差別化を図ります。	【保育学科】 夏・秋の保育祭、ｽﾃｰｼﾞｱｯﾌﾟｾﾐﾅｰ等「音楽・美術教育」において魅力ある教育をめざし、他校との差別化を図った。
		(4) ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ等の教育ﾂｰﾙを積極的な活用やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上に努め、主体的行動ができる人材を育成します。	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を目的にした FD・SD ｾﾐﾅｰを実施した。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(5) 事務部門は、ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ遵守を図るとともに、人員再配置による多能化や業務の効率化、業務ﾐｽやﾋﾔﾘﾊｯﾄ事例等を共有し、ﾘｽｸ管理を強化します。	業務ﾐｽやﾋﾔﾘﾊｯﾄ事例の報告の徹底、共有を行うとともに再発防止に努めた。業務担当者の明確化を図り、月間計画の見える化、進捗管理を通じて業務の効率化に努めた。
2	教育内容・水準の充実	【共通】 (1) 学生の満足度が高く、質の高い教育を効果的に提供します。 ｱ 新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短大への期待度を把握することで、入学直後の指導を効果的に行います。 ｨ 到達目標達成評価表(ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ評価法)を導入し、到達度の低い教科目の内容(授業方法やｶﾘｷｭﾗﾑ)を効果的に改善します。 ｳ 改訂版「授業評価ｱﾝｹｰﾄ」の導入、結果を踏まえた PDCA を浸透することで、「授業の質の向上」を図ります。	【共通】 ・今年度ｼﾗﾊﾞｽを一部改定し、時間外学習の「授業前」「授業後」学習欄を設けた。前期、後期授業実施後の教員へのｱﾝｹｰﾄを実施、結果を分析、改善に努めた。 ・到達目標達成評価表(ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ評価法)の具体的導入検討には至らず。 ・改訂版「授業評価ｱﾝｹｰﾄ」を前期・後期実施した。結果を踏まえ、課題を明確にし、改善に努めた。
		(2) 休学・退学可能性のある学生の早期発見、親身な生活・学習面のｻﾎﾟｰﾄ、保護者との密な連携等により、休・退学者の発生を防止します。	[保育]修学支援が必要な学生に対し、学生相談担当教員が中核となり、ｸﾗｽ指導教員並びに各種委員会ﾒﾝﾊﾞｰと連携しながら、適切な支援を行った。 [ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]年 4 回のｵﾌｨｽ面談および、気になる学生は随時面談を行い、保護者との連携に努めた。
		(3) 「文科省ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」に沿った短期大学における 3 つのﾎﾟﾘｼｰ(ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ、ｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾎﾟﾘｼｰ、ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ)を点検し、整備に努めます。	[保育] 再課程認定申請を踏まえ各ﾎﾟﾘｼｰの点検、見直しを実施した。 [ﾗｲﾌ]学生の現状、社会状況の変化に鑑み、学科の教育目標、ｶﾘｷｭﾗﾑﾎﾟﾘｼｰ、教育研究上の目的を見直し、新ｶﾘｷｭﾗﾑへの移行体制を整備した(2018 年度入学生対応)。

No	施策種類	事業計画	自己評価
2	教育内容・水準の充実	【保育学科】 (4) 本学の特色である「音楽教育」と「美術教育」を HP や学校説明会等で分かりやすく説明し、ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ力を高めます。	夏・秋の保育祭、ｽﾃｰｼﾞｱｯﾌﾟｾﾐﾅｰ等を通して、ｾﾐﾅｰや発表会を行い、「音楽・美術教育」において魅力ある教育を目指した。
		(5) 「ｽﾃｰｼﾞｱｯﾌﾟｾﾐﾅｰ」を正規科目として検討し、保育者にとって必要な教養・人間性教育を充実させます。	「なわてｼﾞｪﾝﾇ」を合言葉に 3 つの目標(挨拶、言葉遣い、感謝する気持ち)を学生に浸透させるように各教員が取り組んだ。
		(6) 総合福祉ｺｰｽの教員との協働による「保育」と「介護」の連携を視野に入れた本学独自の保育学教育の在り方を検討します。	保育士資格特例講座開催にあたり、総合福祉ｺｰｽの教員との協働による「保育」と「介護」の連携を視野に入れた授業内容の充実に努めた。
		(7) 実習先との連携を強化します。 ｱ 連携強化につながる「指定園方式」を推進します。 ｨ 前年の評価表実績に基づき、事前・事後学習の内容を改善します。 ｳ 実習先との意見・情報交換の機会を増やし実習内容の一層の充実を図ります。	ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰとも連携し、実習先との意見・情報交換の機会について、他学の取組み等情報収集に努めた。
		【ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科】～現実社会に対応し生き抜く力を育成します。 (8) 挨拶・ﾏﾅｰに始まり、自分で考え、能動的で責任感を持ち、他者と協働し、社会に参画できる「明るく、元気」な人材を育成するため教職員が一体となって取組みます。	入学式午後から立礼を「なわて式立礼」と呼び、練習させ、ﾗｲﾌの学生としての立ち居振る舞いを意識させ、自覚を促した。専任、非常勤、職員が一丸となり同じ「なわて式立礼」の指導を心掛けた。「なわて式立礼」を在学生がｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽでも披露。意識の高い入学生の獲得に向けて取り組んだ。 日々の継続的な取り組みが少しずつ効果をあげ、就職・進学につながりつつある。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(9) 社会や学生のﾆｰｽﾞを的確にとらえ、ｶﾘｷｭﾗﾑ、授業内容を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各ｽｷﾙと就職先・ｷｬﾘｱﾊﾟｽの関連を具体的に例示し、主体的にｷｬﾘｱﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ(将来の生活設計)を判断できる能力を高めます。	授業のみならず、ｵﾌｨｽ面談等でも教科の担当を超えた指導を心掛け、さまざまな方向から「なりたい自分」とそこに向かうために今何をすべきかをﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟした。
		(10) 「課題発見・対応能力」を高めるため、「ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ」の導入を一層積極化するとともに、授業内容を充実させます。 そのため、各教員のｽｷﾙｱｯﾌﾟ、各学生のﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝを高めるため個々の能力に応じた指導、「ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ」重視の授業の浸透、評価方法等の課題を解決していきます。	「課題発見・対応能力」を高めるため、「ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ」の導入を一層積極化するとともに、授業内容の充実に努めた。
		【総合福祉ｺｰｽ】 (11) 各学生にきめ細かい学習指導、実習支援、就職支援を徹底し、全在籍学生の卒業・就職等を最優先課題とする。	各学生にきめ細かい学習指導、実習支援、就職支援を徹底し、学科の教員全員で共有、指導に注力した。 ⇒全員が内定決定。介護福祉士国家試験 5 名(前期卒業生除く)への受験対策講座ｻﾎﾟｰﾄに注力した。
3	教育・研究基盤の充実	(1) 基礎学力を効率的に高めるために導入した「なわてﾄﾞﾘﾙ」(e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ)」を継続するとともに、基礎学力とSPI能力の連動性や対象科目の変更等を検討します。	・基礎学力を効率的に高めるために導入した「なわてﾄﾞﾘﾙ(e-ﾗｰﾆﾝｸﾞ)」の内容を見直すとともに、利用方法説明会(学生向け・教員向け)を開催した。また、公務員講座開催時期の見直しにより、受講者増強に努め、基礎学力の向上を目指した。 →1 次試験合格 5 名(保育)
		(2)ICT の活用の 1 つとして「eBook」による図書館の充実、24 時間化を推進します。	「eBook」による図書館の充実について検討継続した。
		(3) 科研費取得目標を 300 万円とします。また、教員の科研費獲得ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝを高めるため、獲得者に対する報奨金制度導入を検討します。	教員 2 名が応募 →認定されず。報奨金制度導入は見送り。

No	施策種類	事業計画	自己評価
4	教育・研究基盤の整備	(1) 教育提携の在り方について再検討します。	滋慶学園からの講師派遣を継続。
		(2) 過去の公開講座(社会人ﾘﾌﾚｯｼｭ講座、なわて保育講座、市民講座)の記録化を推進しまた、廃止予定の総合福祉ｺｰｽの業績を記録する意味も込め、「ｼﾘｰｽﾞ健康福祉本」を刊行・配布し、地域社会に貢献します。	廃止予定の総合福祉ｺｰｽの業績を記録する意味も込め、「ｼﾘｰｽﾞ軌跡」を実習先などの施設に配布し、地域社会に貢献した。
5	社会貢献・文化活動の推進	(1) 本格的な「社会人教育」(専門知識の学び直し等)の導入し地域に貢献します。 ｱ 幼稚園免許取得者の社会人を対象とする「保育士特例講座」(夏季集中)を募集します。 ｨ 出産・子育て等を機に離職した幼稚園教諭や保育士(潜在保育士等)に対する大東市等の研修に対する協力態勢の拡大に引き続き取組みます。	・「保育士特例講座」(夏季集中)を開催した。→12 名が受講。 ・出産・子育て等を機に離職した幼稚園教諭や保育士(潜在保育士等)に対する大東市主催の研修に講師派遣、協力した。 ・社会人ﾘﾌﾚｯｼｭ講座⇒29 年夏休み親子講座開講 ・30 年度新規講座 2 講座開講決定
		(2) 教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を行う等、「なわて保育学総合研究所」の活動を拡大し、地域に貢献します。	四條畷市との協働事業に取り組んだ。公立園(認定こども園、保育所及び児童発達支援ｾﾝﾀｰ)を中心に、保育・心理の専門教員が各公立園に出向いて、保育技術指導や保護者支援への助言等を行った。また、四條畷市内の公立園を対象に「公開保育」のｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ役を担った。
		(3) ｸﾞﾘﾑｺﾝｻｰﾄを公開(過去のｺﾝｻｰﾄ動画を編集・CD 化)し、「音楽の四條畷短大」の文化・伝統を地域住民と分かち合う施策について引続き検討します。	動画等の公開にあたり個人情報の対応等が課題で進捗せず。地域住民との協働による発表機会の施策を模索。
		(4) 大学(ﾘﾊ学部・看護学部)と連携し、「認知症対策」や「高血圧対策」等の高齢者に関心のあるﾃｰﾏによる地域講座を継続開催します。	ﾎｰﾑｶﾐﾝｸﾞﾃﾞｲ開催にあたり、地域ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と協働で笑うことの大切さをﾃｰﾏにした手話講座を開催。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(5) 大東市福祉協議会運営の「生活ｻﾎﾟｰﾄ事業」(大東市に在住・在勤・18 歳以上の学生が高齢者等と生活をｻﾎﾟｰﾄする)に積極的に参加します。	子ども・子育て会議において、指導的立場をもって、地域の実情に応じた「子育て支援」に注力した。
6	内部進学	(1) 学園高校向説明会で、在学生や卒業生の実体験を紹介し、各ｴﾘｱの学びと就職先が具体的にｲﾒｰｼﾞできるよう説明に工夫し、本学に対する理解を深めます。	[保育学科]学園高校「保育ｺｰｽ」担当の教員と連絡を密に取り、内部進学の後押しに取り組んだ。 [ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]編入学し公立高校に採用試験合格した卒業生のﾋﾞﾃﾞｵﾚﾀｰを作成、紹介することで、さまざまな進路選択が可能であること、男子学生も過去におり、卒業後活躍していることをｱﾋﾟｰﾙした。
		(2)高校・短大を通じて継続的に挨拶やﾏﾅｰ等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期的な協議会)を構築し、学園出身者の「社会適応力」を高めます。	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ検定受験対策として、教員派遣のもとｻﾎﾟｰﾄを行った。
7	進路対策・就職対策	(1) 大学編入希望者の個別相談に応じ的確な支援をし、編入希望の多い大学や専門学校の「編入指定校」を増やし、「大学編入」という就職以外の選択肢をｱﾋﾟｰﾙします。	大学編入合格者 4 名。(前年比+2 名)
		(2) 卒業生のﾈｯﾄﾜｰｸを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増やし、直近情報の交換、就職・社会体験等の共有化、先輩としての助言等により、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓につなげます。 ※【ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科】 卒業生の職場訪問を行い、近況や現場における人材養成のﾆｰｽﾞも聞き取り、学生指導に生かしていきます。	[保育学科]大阪府私立幼稚園連盟、大阪市私立保育園連盟、大阪府保育部会が主催する「就職ﾌｪｱ」に学生の積極的参加を促すことで、希望する園の絞り込みが可能となり、就職活動の活性化が図れた。また、ｷｬﾘｱｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰの協力のもと H29 年度卒業者の就職先を訪問し、卒業生の現状把握のもと、ﾌｫﾛｰ・ｻﾎﾟｰﾄに努めた。 [ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]卒業生の職場訪問を行い、近況を知るとともに、次年度への就職求人にもつなげる試みを行った。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(3)「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫し参加者・出席率を向上させ、公務員志望・適性のある学生を支援します。	[保育]公務員試験 1次試験合格 5名 [ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]学生の公務員講座への参加促進の方法を模索中。
		(4) 地域の中堅・中小企業を開拓し、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟを通じた就職先を確保することを積極化します。	[ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]文科省の方針にもあるｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの積極的活用を検討中。全国大学実務教育協会の資格申請(再課程認定)において、資格取得の選択科目として「ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ」を導入し、実践力養成を強化すべく検討中。(「実践ｷｬﾘｱ実務士」「ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務士」「情報処理士」「上級情報処理士」)
8	学生募集	(1) 好成績の部活動やｺﾝｸｰﾙ入賞、公開講座等を本学 HP や大東市や四條畷市の広報誌に積極的に投稿することで、本学の認知度ｱｯﾌﾟに貢献します。	[保育学科]保育を希望する生徒に向けて積極的に「出前授業」を提供してきた。 [ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]2年連続ｻｰﾃｨﾌｧｲ全国4位(優秀校)、学生によるﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ大会1位入賞など、その都度ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ等で紹介し募集につなげるように迅速に広報した。ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽでの周知含む。
		(2) 保護者対象の「教育懇談会」を各学期に開催し、十分なｻﾎﾟｰﾄ体制で対応します。ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科では、学生の就職活動に向けた保護者説明会開催を検討します。	[保育学科]修学支援を必要とする学生対応として、必要に応じて保護者と面談を重ねることで、適正に応じた就職先に繋がった。 [ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科]1年生保護者対象就職説明会を10月実施済。参加者は少なかったが、学生の就活状況と授業との連動、保護者の協力すべき点などが理解でき非常に満足との感想であった。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(3) 広報課と連携し、入学者実績に基づいて媒体・業者の委託ｳｪｰﾄを見直し効果的な学生募集を行うことで、外部入学者を安定的に確保します。	・入学者実績に基づいて媒体・業者の委託ｳｪｰﾄを見直した。 ・保育ｺｰｽを設置している高校への訪問を検討している。 ・出願状況に鑑み、今年度ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ総合学科専任教員は、秋に再度高校訪問を実施。学生募集、出願依頼を実施。 ・HP の改編、広報活動が不十分であった箇所が見られ、改善課題。
		(4) 短大生活やｷｬﾘｱﾌﾟﾗﾝのｲﾒｰｼﾞ(ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ)の理解を深めるため、ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ等における模擬授業や短大生の実体験紹介を増やします。	ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽにおける受付や参加者との接点強化を増やし、生の声を伝えることに努めた。
9	災害対策への取組	「危機管理ﾏﾆｭｱﾙ」に基づき、的確な災害対策、対応ができる体制を確立するために、短大の防災訓練を実施し、問題点を把握し改善策を検討します。	・避難経路の見直し、消火器の配置場所を明確にする等、掲示物の見直し、周知徹底に努めた。 ・清風学舎で避難訓練を実施。
10	その他	(1) ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽに則った業務改善に取組み、効率化ときめ細かい事務対応の両立を目指します。また、清風学舎と北条学舎の連携を強化し、人事異動による影響を最小限に抑え、円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。	・各学舎での定例の朝礼を実施。管理者ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ(月 2 回程度)を導入。役割の見直しのもと、業務の多能化を目的に、単独で取組む体制に変更し、責任を明確にした。課長による点検体制の明確化により、牽制機能を強化した。 ・清風・北条学舎一体行事の開催、随時ｻﾎﾟｰﾄ体制のできるよう意識改革に努めた。
		(2) 事務部門では、短大と大学の連携を密にし、自由な意見交換により、前例にとらわれず、事務改善を継続するｶﾙﾁｬｰを根付かせます。	・事務連絡会を通じて、情報共有に努めた。 ・清風学舎の共同利用に向けた協議を通して、将来の統合にむけた第一歩に着手できた。

No	施策種類	事業計画	自己評価
		(3) 事務職員が外部の SD 啓発研修会等に積極的に参加し、ﾋｱﾘﾝｸﾞした最新情報を教職員間で共有し、事務ﾌﾟﾛｾｽの改善につなげます。	・各職員のﾚﾍﾞﾙに応じた外部研修への積極的な参加を促した。参加報告書の提出、朝礼での共有に努めた。 ・FD・SD 共同のｾﾐﾅｰを開催により、意識改革に努めた。
		(4) 業務ﾐｽやﾄﾗﾌﾞﾙ、ﾋﾔﾘﾊｯﾄを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、ﾘｽｸ削減につなげる意識、文化を根付かせます。	・あらゆる機会、多方面からの情報収集、共有に努め、迅速な対応に努めた ※不審者情報、学生の被害状況等、迅速かつ個人情報に配慮しつつ対応し、報告・連絡・相談等を行った。 ・学生に関する事案は全て迅速に報告するよう徹底した。内容によっては学科の全教員が周知し、保護者とも密に連携するよう努めた。

高等学校

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 教育理念に基く学校経営計画及び教育計画	(1) 理念･方針に基く教育計画の再構築	学年･校務分掌等の教育活動計画を改善します。	教職員自己評価点 4.1	教育理念･教育方針をふまえた指導目標･計画を学年･校務分掌で策定した。(自己評価 4.1)
	(2) 教職員の資質向上と学校運営体制を改善･整備	教育課題に即した研修の充実を図ります。	教職員自己評価点 3.8	夏期職員研修会での AL 授業体験･実践報告は、教員に大きな影響を与えた。(自己評価昨年度 3.3、今年度 3.8)
2 高校生としての学力及び態度･諸能力の基盤養成	(1) 主体的･対話的で深い学びの実践	ｱ 基本的な知識･技能の習得のための授業改善を行います。 ｲ 思考力･判断力･表現力の養成のための授業改善を行います。 ｳ 対話力･課題発見･解決力等を養うための主体的･対話的で深い学びの授業を行います。	ｱ 生徒評価点 3.7 教職員自己評価点 4.1 ｲ 教職員自己評価点 3.8 ｳ 教職員自己評価点 3.8	分かりやすい授業のための改善に積極的に取り組んでいる。(自己評価 4.1)思考力･判断力･表現力を付ける為の授業改善にも努力している。(自己評価 3.9)AL 授業を実践されている先生方の動画ｻｲﾄを閲覧し、学び始めようとする教員が増えた。また、2 学期後半から月 1 回の AL 勉強会も行った。次年度さらに発展させたい。(自己評価 3.6)
	(2) 集団･社会に貢献できる態度･実行力	ｱ 基本的生活態度を改善します。 ｲ 活動･行事等を通して社会性を身につけます。	ｱ 生徒評価点 3.6 教職員自己評価点 4.2 ｲ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9	基本的な生活習慣･態度･ﾏﾅｰを身につける指導を全教員一致協力し指導に当たった。(自己評価 4.1、生徒評価 3.8)

学校法人四條畷学園

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
	(3) 部活動を通して心身の鍛錬	ア 自らの心身を鍛えます。 イ 部活動を通して社会性を身につけます。	ア 教職員自己評価点 4.1 イ 教職員自己評価点 4.1	様々な部活動で技術や精神力など心身を鍛えた。(自己評価 4.3)また、個性や能力を伸ばし、社会性を身につけた。(自己評価 4.2)
	(4) 市民性を育む教育	市民性･主権者意識を育む教育を実施します。	生徒評価点 3.2 教職員自己評価点 3.4	18歳の選挙権を見すえ市民性･主権者意識を育む主権者教育は充分という所までは達していない。(自己評価 3.2、生徒評価 3.3)次年度工夫を要する。
	(5) 国際的資質を育む教育	研修生･留学生の派遣、受入れを実施します。	教職員自己評価点 4.4	豪州の友好校より訪日団を受け容れ、交流が図れた。(自己評価 4.3)
3 他者とともにより良く生きていくための人権感覚	(1) 自己･他者が共に良く生きようとする態度	ア 人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施します。 イ 学級生活や活動を通し仲間と共に調和して生活しようとする態度を養います。	ア 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9 イ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9	学年別にﾃｰﾏを設定し様々な人権問題について学習した。人権 L･H･R も有意義であったとの感想も報告された。(自己評価 3.9、生徒評価 3.6)学級生活や活動を通して仲間と共に生活しようとの指導はできている。(自己評価 4.1、生徒評価 3.7)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
	(2) 一人ひとりのﾆｰｽﾞに応じた指導	ｱ 様々な課題を抱える生徒一人ひとりに丁寧に対応し支援を行います。 ｲ 生徒のﾆｰｽﾞを把握し教職員が連携して特別支援教育を実施します。	ｱ 生徒評価点 3.5 教職員自己評価点 4.1 ｨ 教職員自己評価点 3.7	様々な課題を抱える生徒に丁寧に対応し支援はできている。(自己評価 4.2、生徒評価 3.5) 生徒のﾆｰｽﾞを把握し教職員が連携して特別支援教育を進めているが、まだまだ充分という所まではできていない。(自己評価 4.0)
4 未来を切り拓くｷｬﾘｱ教育･進路指導	(1) 未来の目標を実現する能力	(1)ｱ 自分の興味･関心を知り進路目標を考える学習を行います。 ｲ 職業に対する関心･意欲を高める体験的学習を実施します。	(1)ｱ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9 ｲ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9	生徒の興味･関心を知り将来の目標を考えた進路指導を実践している。(自己評価 4.0、生徒評価 3.7)職業に対する体験学習については、学年別ｷｬﾘｱ教育として実践し成果を挙げている。(自己評価 4.1)
	(2) 生徒の目標を実現させる進路相談･支援	ｱ 進路情報を提供し、相談･助言を行います。 ｲ 放課後･休業中の講習を実施し、進路指導体制を整備します。	ｱ 生徒評価点 3.7 教職員自己評価点 4.2 ｲ 教職員自己評価点 4.0	進路情報を提供し、相談･助言はかなりできている。(自己評価 4.2) 放課後や休業中の進学講習等は、それぞれの志望に対応できる講習を実施している。(自己評価 3.9)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
5 安心･安全な社会を築くための態度と行動力	(1) 防災･減災に向けた防災教育･訓練を実施	ｱ 防災･減災に向けた訓練を実施する。 ｨ 自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高めます。	ｱ 教職員自己評価点 4.3 ｨ 生徒評価点 3.7 教職員自己評価点 3.9	防災訓練や大阪 880 万人訓練などの訓練を定期的に実施し高い評価である。(自己評価 4.0、生徒評価 3.9)防災学習については、意識を充分高めるところまでは到達していない。(自己評価 3.7)

【施設･設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 情報教室のﾊﾟｿｺﾝ更改	(1) 第二飯盛嶺校舎 3F 情報教室のﾊﾟｿｺﾝ更改(83 台)	設置後 5 年以上経過するﾊﾟｿｺﾝ 83 台を更改します。	第二飯盛嶺校舎 3F 情報教室のﾊﾟｿｺﾝ更改計画(83 台)20%	ﾊﾟｿｺﾝ教室 2 教室をﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ 42 台とﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ 42 台に更改した。

【教育･研究】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 AL 授業の研究と実践を推進	(1) AL 授業の研究と実践を推進	AL 授業の実施に向け、研修･報告･実践の機会を提供します。	教職員自己評価点 3.8	夏期職員研修会の AL 授業体験･実践報告は、教員に大きな影響を与えた。(自己評価 3.8)
2 ICT 教育の研究と実践を推進	(1) ICT 教育の研究と実践を推進	ICT 教育の実施に向け、研修･報告･実践の機会を提供します。	教職員自己評価点 3.5	授業の動画化を検討し、取り組み始めたが、まだ充分なところまで到達できなかった。次年度に持ち越した。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
3 新学習指導要領の方向性を踏まえた教育課題の研究と課題解決に向けた活動を推進	(1) 新学習指導要領の方向性を踏まえた教育課題の研究と課題解決に向けた活動を推進	(1) 新学習指導要領の方向性を踏まえた教育課題の研究と課題解決に向けた活動を推進するためのﾁｰﾑづくりと研修･報告の機会を提供します。	(1) 教職員自己評価点 3.5	AL を実践している教員の有料動画ｻｲﾄを先生方にｱｸｾｽできるようにしたが、全教員が参考にと見るところまで広めることができなかった。次年度も月 1 回の AL 学習会を開き、さらに教員の意識を高めていきたい。(自己評価 3.4)

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	自己評価
1 地域公立中学校との連携を強化	(1) 地域公立中学校の進路指導に対する協力と交流の充実	ｱ 地域公立中学校の要請にもとづく出前授業及び高校説明会への協力を行います。 ｨ 地域公立中学校の要請にもとづく高校体験学習を受入れ協力します。	要請があれば積極的に協力し、17 回の出前授業･高校説明会を中学校に出向いて実施した。 また、中 2 年生全員(2 班編成で 2 日に渡り)本校に来校し高校生活体験学習を受け容れた。(1 校)
2 部活動を中心とした地域社会の活動に貢献	(1) 部活動を中心とした地域社会の活動に対す る協力と交流の充実	ｱ 部活動を中心とした地域の学校･福祉施設での演技･演奏の協力実施と交流を行います。 ｨ 保育ｺｰｽを中心とした地域の幼稚園･保育所等での演技･発表の協力実施と交流を行います。 ｳ 部活動を中心とした地域の交通安全･人権啓発･記念行事等での演技･演奏の協力と実施を行います。	吹奏楽部は 17 回、ﾊﾞﾄﾝ部は 4 回、ﾀﾞﾝｽ部は 2 回、それぞれ依頼を受け演奏･演技を行い、地域への貢献をした。また、保育ｺｰｽも、近隣の幼稚園での依頼発表を行った。

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	自己評価
1 生徒募集対策の強化	(1) 募集･広報体制の整備	ｱ 人員･組織を整備します。 ｲ 活動計画を立案し、実施します。 ｳ 活動予算の立案と効果的に実施します。	人員を整理し、毎週 1 回の会議をほぼ年間を通して実施できた。 学校見学会のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを中学生にとって魅力的な会となるよう工夫し、生徒の力を借りて実施できた。
	(2) 募集･広報戦略の改善	ｱ 募集の方法･手段･時期を効果的に設定します。 ｲ 活動対象に応じた戦略を立案し、実施します。 ｳ 活動内容･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ･PR ﾎﾟｲﾝﾄ･提供情報を工夫します。	学校見学会のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを生徒主体で生徒による学校紹介となるように工夫した。参加者には、とても好評であった。
	(3) 教育の特色の明確化	ｱ 各ｺｰｽの特色強化と実績の向上を図ります。 ｲ 教育活動を充実させ、生徒の成長に繋げます。 ｳ 教育理念に即した人を育てる教育を実践します。	ｷｬﾘｱ教育を各ｺｰｽごとに内容を変え、より興味関心を持てるように対応した。

【その他】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 内部進学	(1) 中高連携の強化 ｱ 中高連絡会議の充実 ｲ 内部進学増加のための具体的方策を実施 ｳ 高校の魅力ある教育の新たな実施を検討	ｱ 会議の回数増加により連携の充実を図ります。 ｲ 説明会及び模擬授業を工夫します。 ｳ 特進の改善と準特進ｸﾗｽ設置を検討します。		今年度は、回数を増やすことはできなかったが、じっくりと内部進学増加につながる検討を行った。具体的には、中学校の保護者会の際、中学校内で内部進学相談ｺｰﾅｰを設置し、より詳しい内部進学の説明をすることができた。次年度に向けて、内部進学増加対策として、新ｺｰｽ設置の検討もした。
	(2) 高短連携の強化 ｱ 高短連絡会議の充実 ｲ ﾗｲﾌ学科進学増加の説明会･体験授業等の新たな方策の実施 ｳ ﾗｲﾌ学科進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	ｱ 高短連絡会議の充実を図ります。 ｲ 魅力ある説明会･体験授業等を実施します。 ｳ ﾗｲﾌ学科と連携した進路学習を実施します。	教職員自己評価点 3.8	短期大学とは、内部生専用の見学会や魅力有る授業体験を数回実施していただき、内部進学の意識付けができた。(自己評価 3.6)
	(3) 高大連携の強化 ｱ 高大連絡会議の充実 ｲ ﾘﾊﾋﾞﾘ･看護進学増加の説明会･体験授業等の新たな方策の実施 ｳ ﾘﾊﾋﾞﾘ･看護進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	ｱ 高大連絡会議の充実 ｲ 志願者増加に向けた魅力ある説明会･体験授業等の実施 ｳ 大学と連携した進路学習の実施	教職員自己評価点 3.8	大学とは、内部生専用の見学会や魅力有る体験授業を数回実施していただき、内部進学の意識付けができた。(自己評価 3.6)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
2 進路指導の実績向上	(1) 国公立大学合格者増		国公立大学合格 5 名	国公立大学に合計 8 名合格した。
	(2) 有名私立大学合格者増		有名私立大学合格 30 名	関関同立、産近甲龍、上智に合計 76 名合格した。
	(3) 学園大学合格者増		学園大学合格 15 名	5 名合格した。
3 災害対策の強化	(1) 防災訓練の充実	地震･火災等状況に応じた防災訓練を実施します。	教職員自己評価点 4.0	防災訓練や大阪 880 万人訓練などの訓練を定期的に実施し高い評価である。(自己評価 4.0、生徒評価 3.9)
	(2) 教職員の安全･防災意識の向上	地震･津波･豪雨･台風等さまざまな自然災害に対する防災意識の向上を図ります。	教職員自己評価点 3.7	防災学習については、意識を充分高めるところまでは到達していない。(自己評価 3.7)
4 ﾘｽｸ管理体制の強化	(1) ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ管理体制の整備	ｱ 法令遵守意識･人権意識の浸透を図ります。 ｲ 教職員行動規範の浸透を図ります。		教職員の行動規範の浸透を充分図ることができなかった。
	(2) ﾘｽｸ管理体制の整備	ｱ ﾘｽｸを未然に防止する意識を向上させます。 ｲ ﾘｽｸ報告の徹底と迅速･適切な対応を図ります。 ｳ ﾘｽｸ発生の防止体制を改善し、整備します。 Ｉ ﾘｽｸ防止･ﾘｽｸ対応が可能となる職場環境を整備します。		次年度はしっかりﾘｽｸ管理を強化する。

中学校

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1)私学の独自性	ｱ 職員研修などを通じて、建学の精神･教育理念などを理解･実践します。 ｲ 入学式･卒業式･全体集会などを通じて、建学の精神･教育理念について生徒に話をし、理解を深めます。 ｳ 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図ります。	ｱ 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が4.5です。 ｲ 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説明します。 (29年度生徒 3.9) ｳ 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。	ｱ 昨年より0.2ﾎﾟｲﾝﾄ上昇したが、これを維持するよう努力します。(◎) ｲ 生徒の教育理念等の内容理解が昨年より上昇し、目標値に近づいた。4.0 以上を目指し啓発を行います。(○) ｳ 教員の教育方針の理解は高評価ですが、生徒の理解が追いついていない。研修を重ね、生徒の理解を促すよう努力します。(△)
	(2)生徒のﾆｰｽﾞに対応したｺｰｽ制	(2) ｱ 英数ｺｰｽは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるｺｰｽ。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。 ｲ 英数発展ｺｰｽは、夏期講習や3年の土曜日午後の授業で応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというﾆｰｽﾞに応えます。	それぞれのｺｰｽの特徴を理解し、ｺｰｽの取組に満足しているかの設問に対し、 ｱ (平成29年度 生徒3.9 保護者4.0) ｲ (平成29年度 生徒4.1 保護者4.5)	ｱ 英数ｺｰｽの満足度は、ほぼ昨年同様であった。高評価であるが目標値にあと0.1ﾎﾟｲﾝﾄ上げるよう努力します。(○) ｲ 英数発展ｺｰｽは、生徒･保護者とも満足度は目標値を大きく上回っているので、これを維持します。(◎)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｳ 6 年一貫ｺｰｽは、総合的な学習の一貫である「自分ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成します。	ｳ (平成29年度 生徒3.7 保護者 4.1) 全ｺｰｽの平均 平成 29 年度 3.9 です。	ｳ 6 年一貫ｺｰｽの保護者の満足度は高いが、生徒の評価が低い。これからの社会で活躍できる人材を目標に更なる努力が必要です。(△)
	(3) 進 路 指 導	ｱ 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3 年時 2 回の進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽを行います。 ｲ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3 年の 1 学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行います。	ｱ 生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ(平成 29 年度 4.0)を行います。 ｲ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっています。 29 年度は 3.8 と 0.4 ﾎﾟｲﾝﾄ下降しました 4.2 以上を目指します。	ｱ 進路情報の提供について、高評価を維持している。今後、より丁寧な進路指導を実現します。(○) ｲ 個々の生徒に応じた進路相談により目標値に達してます。(△)

【学習指導･人権教育】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり	(1)教科指導	ｱ 各教科は基礎･応用を徹底的に行うため、年間を通じた教育計画を立て、ｼﾗﾊﾞｽに沿って指導します。	ｱ 教員によるｼﾗﾊﾞｽに沿った指導の目標を 4.3 にします。(平成 29 年度 4.1)	ｱ 教員によるｼﾗﾊﾞｽに沿った指導についてはﾎﾟｲﾝﾄが 0.1 下がった。目標値に達するよう努力を重ねます。(○)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｲ 授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行います。 ｳ 学力の向上をめざすため、早朝ﾃｽﾄ･放課後学習･休暇中の講習を実施します。	ｲ 教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を4.5にし、(平成29年度4.4)生徒･保護者による授業は分かりやすいか。(平成29年度 生徒3.8 保護者3.9)との開きが大きい、生徒保護者の目標値を4.2以上に設定します。 ｳ 教員による生徒の学力向上･学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっています。(平成29年度4.1) 生徒･保護者による生徒の学力向上への努力の数値がほぼ一致していますが(平成29年度 生徒3.9 保護者4.0) それぞれ4.3以上を目標とします。 生徒･保護者による生徒の学力向上への意欲が低く(平成29年度 生徒3.6 保護者3.7)4.0を目標とします。	ｲ 分かりやすい授業の展開について、教員評価は高評価であるが、生徒評価･保護者評価は 4.0を下回っています。生徒の授業理解を優先的にﾎﾟｲﾝﾄの上昇を図ります。(△) ｳ 教員評価はすべて4.0 以上の高評価であるが、生徒の学力向上への意欲が低いのは、昨年同様大きな課題です。目標値にむけて研修など通じ、更なる努力を行います。(△)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
2 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり	(1)人権教育	ｱ 人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。	ｱ 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践していますが(平成29年度4.5)昨年より0.3ﾎﾟｲﾝﾄ上昇しています。	ｱ 教員は日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を実践しており高評価です。今後も高評価を維持します。(◎)
		ｲ いじめ等を防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりｱﾝｹｰﾄ」を実施し、人権意識を育てます。	ｲ 生徒･保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か (平成29年度 生徒3.7 保護者3.9)と低い、目標は4.0以上と設定します。	ｲ 「いじめ」の対応についての生徒･保護者の評価は低く、教員の更なる努力が必要です。(△)
		ｳ 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にﾃｰﾏを決め人権教育を行います。	ｳ 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践します。(平成29年度4.4)	ｳ 本校における教員の人権意識は総合的に高いと感じられます。今後も引き続き、これを維持します。(◎)
		Ｉ 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施します。	Ｉ 人権講演や道徳的な行事については(平成29年度 生徒4.2 保護者4.0)保護者の満足度も上昇し現在の人権教育を進めます。	Ｉ 人権講演や道徳的な行事について、生徒評価は昨年同様非常に高い。保護者の理解も得られるよう努力しています。(◎)

【学校生活】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。	(1)生活指導	ｱ 基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせます。 ｲ 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動･ｼｪｱｻﾞｼｰﾄ運動を実施します。	ｱ 教員による、規則を守らせる指導･挨拶･礼儀を重んじる目標は 4.5 以上(平成 29 年度 4.5)であったが、生徒･保護者による教員の規則を守らせる指導 (平成 29 年度 生徒 4.1 保護者 4.1)差 0.4 を縮めることを目標とします。 ｲ (平成 29 年度 生徒 3.7 保護者 3.9)と昨年と同じ評価でした。生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行います。	ｱ 教員･生徒･保護者とも 4.0 以上の高評価です。指導については現状を維持します。(○) ｲ 生徒･保護者の評価が低い、ﾓﾗﾙに関わる大事な指導ですので、より啓発を行います。(△)
	(2)危機管理と情報公開	ｱ 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理ﾏﾆｭｱﾙを作成し、安全･安心な学校をめざします。 ｲ 学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの公開掲示板等で可能な 範囲の教育活動や情報の公開を行います。	ｱ 安心･安全な学校を目指すには、危機管理ﾏﾆｭｱﾙの整備(平成 29 年度 4.4)及び、緊急時の警察、消防との連携･訓練等の学校安全対策は(平成 29 年度 4.4)4.5 以上の目標が必要です。 ｲ 情報公開については、保護者の満足度が低く、(平成 29 年度 生徒 3.8 保護者 4.0)4.2 以上を目指します。	ｱ.安全･安心な学校を目指すため、訓練等の学校安全対策を実施しており、高評価となりました。これを維持できるよう努力します。(◎) ｲ.評価は少しずつ高くなり、ようやく今年の保護者評価が 4.0 に達しました。今後、学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞでの教育活動やﾌｪｲｽﾌﾞｯｸなどの情報公開を行います。(△)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
	(3)学校行事や部活動	ｱ 社会性や協調性の育成のため、ｸﾗﾌﾞ活動を奨励します。 ｲ 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞなど多彩な行事を充実させます。	ｱ 説明会やｶﾞｲﾀﾞﾝｽなどで、ｸﾗﾌﾞ活動の参加を奨励します。(平成 29 年度 生徒 4.0 保護者 3.9) ｲ 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てます。(平成 29 年度 生徒 4.3 保護者 4.4)	ｱ ｸﾗﾌﾞ活動については毎年高評価でしたが、今年度は評価が下降しました。次年度はｸﾗﾌﾞ活動の健全な指導を目指します。(○) ｲ 行事については毎年高評価です。来年もこれを維持します。(◎)
	(4)課題を抱えている生徒への支援	ｱ 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談･指導を行います。 ｲ 問題解決の部署として ICP(臨床心理研究所)の存在の明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努めます。	ｱ 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談･支援を行なっています(平成 29 年度 4.4) ｲ 生徒の個人面談等の満足度は低い。(平成 29 年度 生徒 3.7)両方とも 4.2 以上を目標とします。	ｱ 担任は日直面談等きめ細かい相談･支援を行なっています。自己評価も昨年より 0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ上昇し高評価なので、これを維持します。(◎) ｲ 個人面談や ICP などは 生徒･保護者からは相談しやすい環境ではないらしい。環境改善に取り組みます。(△)

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 保護者･同窓会･後援会との連携と社会貢献	(1)保護者･同窓会･後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。	ｱ 保護者と協力し PTA 活動を活発にするとともに、保護者･同窓会･後援会との連携し、文化祭･体育会などの活動を支援します。	ｱ 保護者から見る PTA 活動は(平成 29 年度 保護者 4.0)目標値ﾚﾍﾞﾙです。	ｱ 本校の PTA 活動は協力的で活発です。来年度もこれを維持します。(○)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｲ 復興支援やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動等で地域に協力します。	ｲ 生徒から見る生徒会活動は(平成 29 年度 生徒 4.1)と昨年同様目標値に達しています。	ｲ 老人ﾎｰﾑの慰問や震災復興支援など生徒会を中心に続けて活動している成果があらわれ評価が高くなってきた。来年度もこれを維持します。(○)

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 生徒募集対策	(1)外部入試説明会は、新しい内容を取 り入れさらに充実を図り、より多くの受験者の確保に努めます。	生徒によるｸﾗﾌﾞ紹介やﾌﾟﾚﾃｽﾄを実施します。	第 4 回説明会参加者数 350 名以上を目指します。	29 年度説明会参加者 第 1 回 423 名 第 2 回 394 名 第 3 回 417 名 第 4 回 381 名 参加者数が受験者数に反映するよう努力します。(○)
	(2)小中連絡会などを通じて内部小学校との連携充実に努めます。また内部進学者数の増加に努めます。	中学校紹介･進路相談ｺｰﾅｰなどを設置し、公開授業･体験授業などへの児童の参加を勧めます。	内部進学者 70 名以上を目標とします。	平成 30 年度入試での学園小学校からの内部進学者数 62 名。より多くの内部進学者数を確保するため、小学校との連携を強め努力します。
	(3)中高連絡会などを通じて内部高等学校との連携充実に努めます。	各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解するように努力します。	内部高校への進学者 70 名以上を目標とします。	平成 30 年度 6 年一貫 53 名 3 年ｺｰｽ専願 20 名 併願のもどり 3 名 合計 76 名
	(4)中高 6 年一貫ｺｰｽの生徒募集を強化します。	他私立学校にないｷｬﾘｱ教育･総合学習の内容を内外の説明会等で発信します。	35 名の入学者を目指します。	志願者は 35 名近くいましたが 6 年一貫入学者 21 名です。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
	(5)3 年ｺｰｽ(英数･英数発展)の高校進学実績の外部評価を維持します。	今後も継続して進学指導の強化に努めます。	安定した募集を目指します。	平成 30 年度は、複数中学校を受験している児童が多く辞退者が 25 名となりました。
	(6)ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの充実	受験生、保護者等に四條畷学園の魅力をわかりやすく伝えます。	本学の教育の特長を説明する等ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを充実させます。また、Facebook による情報発信を一層充実させます。	現在、Facebook の発信を随時行っています。
	(7)募集定員の変更	6 ｸﾗｽ募集から 5 ｸﾗｽへ変更のため、185 名募集を 175 名に変更します。	定員充足を目標とします。	平成 30 年度、合格者 201 名、辞退者 25 名、入学者 176 名です.

小学校

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 選び抜いた内容の実践と改良	(1)「指導要領ﾌﾟﾗｽ」をｽﾛｰｶﾞﾝとしたｶﾘｷｭﾗﾑ･教材/教具を模索、実践しその効果を検証します。	ｱ 公開授業研究会を視野に入れ、校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。 ｲ 指導要領にﾌﾟﾗｽした独自性のある学習ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ開発します。	指導力向上に関する教員自己評価を 4.3 以上にします。(平成 28 年度 4.3)	教職員の自己評価(平均): 個性尊重・実行から学べ・明朗と自主の教育方針に基づいて、その具体化を図っている…4.0 十分な検討のもと、年間教育計画を立てている…4.0 教務主任を中心として、機能的に運営されている…4.0 全職員研究会・学年会議を、課題検討・情報交換の場として有効に機能させている…4.0 計画的に、教職員対象の研修が行われている…3.9 個人の研究・研修を支援する制度が整備されている…3.7 外部の研修会などで得た情報を、校内で共有しやすくなっている…3.7 活発に、教員間で教育生活指導について、意見交換している…4.1 学校経営の財務状況に基づき、健全な運営を行っている…4.0

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
	(2) 5･6 年生の英語ｶﾘｷｭﾗﾑと教材を開発します。	ｱ 現在まで行われてきた3~6 年生のｶﾘｷｭﾗﾑと教材を精選し、2~4 年生用に再編します。 ｲ 5･6 年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。 ｳ 英語科教科研究部を立ち上げ、複数教員による英語科研究体制を構築します。		学校 HP の公開掲示板や通信などで、教育活動の情報提供に努めている…4.2 職員の適切な勤務実態と健康管理につとめている…3.5 学力向上についての自己評価は目標に達せず。校内研究会などによる実践の交換と討議が必要。 保護者、児童ｱﾝｹｰﾄのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。
	(3) 道徳教育の充実を図ります。	(3) 教科道徳への移行をふまえ、週 1 回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。		
	(4) 全校行事を改良します。	(4) 保護者や児童の意見をもとに、体育会や秋祭りに改良を加えます。		
	(5) 宿泊行事を見直します。	(5)ｱ 修学旅行の行き先と行程を変更します。 ｲ 林間学校を自然学校に変更し、縦割り活動を中心とした行事に改良します。 ｳ 5 年生希望者に琵琶湖ﾌﾛｰﾃｨﾝｸﾞｽｸｰﾙを導入します。		

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
2 基礎学力の徹底	(1) 国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。	(1)ｱ「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業ﾌﾟﾗﾝを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりﾌﾟﾗﾝの質的向上を図ります。 ｲ「書くこと」を意識した授業を全ｶﾘｷｭﾗﾑに導入し、児童の書いたﾉｰﾄ、WS類を校内研究会で研究の対象にします。 ｳ 統一確認ﾃｽﾄ等の学力ﾃｽﾄで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任およ び学年補助教員が対象児童の学力向上に努める。次年度の学力ﾃｽﾄでその成果を再調査 し、指導方法が有効であったかを検証します。 Ｉ 読書活動を励行し、「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことを意識した指導を行う ことで、語彙を増やします。	(1) ・学力向上に関する教員自己評価を 4.5 以上にします。(平成 28 年度 4.5) ・学力ﾃｽﾄの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。	分かりやすい授業の実践に努めている…4.2 学習意欲向上に努めている…4.3 学力向上に努めている…4.2 学習の遅れている児童への支援を行っている…4.0 問題を抱えた児童や保護者への相談活動に努めている…4.0 きめ細かな進路相談に努めている…3.9 保護者との連携に努めている…4.1 読書指導に努めている…3.9 社会的ﾏﾅｰ・ﾓﾗﾙの定着に努めている…4.1 人権意識向上に努めている…4.1 挨拶など礼儀を重んじる態度の定着に努めている…4.0 時間を守るなど、規則を守る態度の定着に努めている…4.3 思いやりのある態度育成に努めている…4.2

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
	(2) 国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。	ｱ 低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。 ｲ 「読む･書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙力を増やします。 ｳ すべての教科で、聞き取ったことをﾒﾓしたりﾉｰﾄに取ったりする活動を増やします。 Ｉ 児童が最後まで集中して聞いているかどうかを第三者に評価してもらい、ｱﾄﾞﾊﾞｲｽを受けます。	学力ﾃｽﾄの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。	しつけに関するｱﾝｹｰﾄは、きまりの良さ、児童の決まり遵守、きまりの指導の 3 項目すべてが向上している。今後も同様の指導を続けることが必要である。 教員自己評価のうち、社会ﾏﾅｰ･ﾓﾗﾙを守る態度の定着については 0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ減。人権意識向上は 0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ増。礼節を重んじる態度育成に関しては 0.3 ﾎﾟｲﾝﾄ減。規則を守る態度の定着は 0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ減と、全体的にﾏｲﾅｽ傾向にある。すべて 4.0 以上ではあるが、もう一度職員の意思統一が必要である。
	(3) 教員の指導力向上をはかります。	ｱ 多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。 ｲ 学年主任を中核とした OJT を推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。	計画的な教員研修に関する教員自己評価を 4.1 以上にします。(平成 28 年度 4.1)	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
3 基本的生活習慣の育成	(1) 規律遵守の意識ﾚﾍﾞﾙの向上を図ります。	ｱ 特に言葉づかい、時間遵守、姿勢について、教員が範を示し児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やします。 ｲ 登下校のﾏﾅｰ向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。 ｳ 校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『ﾏﾅｰ実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。 Ｉ 年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。 ｵ ﾏﾅｰ、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知しその徹底を図ります。	・主体性に関する教員自己評 価を 4.1 以上にします。(平成 28 年度 4.1) ・保護者、児童ｱﾝｹｰﾄのうち、「児童会活動や係活動をがんばっている」の評価を向上します。	
4 主体的な生き方の尊重	(1) 児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活動、行事の内容を再検討します。	ｱ 児童自身が校内のﾏﾅｰ向上策を考え、実行に移せるような縦割り活動や児童会活動を整備し、活性化を図ります。 ｲ 児童会活動のｼｽﾃﾑを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催の挨拶運動を奨励します。	・ ﾏﾅｰ・ﾓﾗﾙに関する教員自己評価を 4.3 以上にします。(平成 28 年度 4.3) ・保護者、児童ｱﾝｹｰﾄのうちしつけに関する 3 項目の平均(4.0 以上)を維持します。	主体性を重視した指導に努めている…4.1

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｳ「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけﾎﾟｽﾀｰ」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。		評価指標である左の 2 項目は、いずれも 4.6 ﾎﾟｲﾝﾄと高水準であり、このﾚﾍﾞﾙを維持できていることは評価に値する。行事を改訂した後も、反省会等でさらに検討を加えていることがこの満足度につながっていると考える。この方法を今後も継続したい。

【安全対策】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
5 安心、安全な学校づくり	(1) 児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。	ｱ 一般防災に関する対策 (ｱ) 防災ﾏﾆｭｱﾙに沿った避難訓練、ﾏﾆｭｱﾙの検討を行います。 (ｲ) ﾏﾆｭｱﾙが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。 (ｳ) 緊急集団下校ﾏﾆｭｱﾙに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。 (ｴ) 緊急時の一斉配信ｼｽﾃﾑを整備します。 (ｵ) 宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。	「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を向上します。	防災や安全に関する指導に努めている…3.9 衛生的で健康な生活の知識技能の指導に努めている…3.7 緊急時のﾏﾆｭｱﾙ整備や登下校ﾁｪｯｸや防災訓練など、安全対策を十分とっている…4.0 ・防災に関する職員の自己評価は 0.1 ﾎﾟｲﾝﾄ減。緊急時に対応する防災訓練等の安全対策についての自己評価も 0.3 ﾎﾟｲﾝﾄ減。防災係を中心として、再度取り組みを見直す必要がある。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｲ 不審者等の危機管理(ｱ)不審者対策危機管理ﾏﾆｭｱﾙにそって危機ﾚﾍﾞﾙごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。		
	(2) 児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。 。	ｱ「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。 ｲ　外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います(四條畷警察・安全教室、NTT 安全ﾓﾗﾙ教室等)。	防災や安全に関する教員自己評価を 4.0 以上にします。(平成 28 年度 4.0)	
	(3) 防災対策を強化します	ｱ 火災、地震等の防災係を組織します。 ｲ 防災ﾏﾆｭｱﾙを作成し、ﾏﾆｭｱﾙに沿った避難訓練を実施します。 ｳ 不審者対策危機管理ﾏﾆｭｱﾙを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。	「防災や安全に関する安全対策」の教員自己評価を 4.2 以上に向上します。	

【施設･設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
6 教育環境の充実	(1) 学校の美化に全校で取り組みます。	ｱ 児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。	・美化に関する教職員の自己評価を 4.0 以上にします。(平成 28 年度 3.9) ・保護者、児童ｱﾝｹｰﾄのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。	物を大切にする心や、美化意識の向上に努めている…3.9 教育活動がしやすく、子どもにとっても好ましい環境が整っている…3.4

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｨ 児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。 ｩ 児童会･美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。 Ｉ 職員室の機器管理を徹底し、業務の効率を上げます。		自然環境保全の意識向上に努めている…3.3

【児童募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
7 内部連携を強化し募集活動を充実	(1) 幼稚園との連携を強化し募集活動を充実します。	ｱ 連絡会･協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 ｲ 保護者対象の公開授業や説明会を実施します。 ｳ 幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。	28 年度は、幼稚園内部進学者 41 名でした。 今年度は、内部進学者 45 名以上を目標とします。	29 年度は、幼稚園内部進学者 51 名でした。(30 年度入学者) 30 年度は、内部進学者 51 名以上を目標とします。
	(2) 中学校との連携を強化し募集活動を充実します。	ｱ 連絡会･協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 ｲ 中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。 ｳ 内部進学の進路指導を強化します。	28 年度は、中学内部進学者 55 名(61%)でした。 今年度は、内部進学者 70%以上を目標とします。	29 年度は、中学内部進学者 62 名(63%)でした。(30 年度入学者) 30 年度は、内部進学者 70%以上を目標とします。
	(3) 募集活動を検討します。	ｱ 児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討します。 ｲ 入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会･塾説明会･体験授業の方法を検討します。 ｳ 広報媒介を検討します。	28 年度は、入学者 102 名でした。募集定員 90 名は、充足しました。今年度も募集定員が充足するように努めます。	29 年度は、入学者 96 名でした。(30 年度入学者) 募集定員 90 名は、充足しました。30 年度も募集定員 90 名が充足するように努めます。

幼稚園

【園全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 心身の健全な成長を促し、豊かな人格形成の基礎を培います。	(1) 健康で明るく活発な子ども･自ら考えて行動できる子ども･思いやりと優しさが持てる子どもに育てます。	自由遊び･体操･かけっこなどを通して体力を培い、時間の流れに応じて考えて行動できる力を培い、困っている友達に気づき優しくできる力を培います。	教職員自己評価点 4.2	ｱ　かけっこやﾘﾚｰで体力を向上させることができた。(4.2) ｲ　3 種目の基本の柔軟体操ができた。(4.2) ｳ　いろいろな遊びやｹﾞｰﾑ遊びの中でも十分に体を動かせた。(4.2) Ｉ　学年･個々の目標が達成できた。(4.2) ｵ　積極的に自ら取り組むようになった。(4.0)
2 感謝の気持ちを培います。	(1) 感謝の気持ちが持てるような環境を整えます。	「ありがとう」の文集作りや勤労感謝の日には働く人に感謝の気持ちを持てるようにします。	教職員自己評価点 4.2	文集作りや働く人に感謝の気持ちを持つことができた。(4.5)
3 基本的生活習慣の形成と規範意識を高めﾙｰﾙを守る態度やﾏﾅｰを身につけます。	(1) 基本的生活習慣の確立を図ります。	挨拶･衣服の着脱･食事･排泄を身につけます。	教職員自己評価点 4.2	生活習慣上大事なことを意識する力を培うことができた(4.2)
	(2) 集団生活に必要な態度を培い、ﾏﾅｰを身につけます。	きまりを理解し、ﾙｰﾙを守れるようにします。	教職員自己評価点 3.9	きまりの理解と集団の中の自分を考える力をつけることができた。(4.2)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
4 教育課程を通して積極的に取り組む態度や友達と助け合い協力する態度を身につけます。	(1) 積極的な行動と友達と協力できる態度を培います。	運動や遊び又、読む、書く、数えるなどみんなと一緒に喜んで取り組み、意欲を高めます。	教職員自己評価点 4.0	学年やｸﾗｽ間の情報共有を強め、園内研修を充実させることで、助け合いの気持ちを高めることができた。(4.0)
5 一人ひとりの子どもの個性・発達・特性に応じた指導をします。	(1) 子どもの個性･発達･特性に応じた丁寧な指導の充実を図ります。	活動の場面ごとや、子どもの個性を理解し、見合った丁寧な指導をします。	教職員自己評価点 4.1	発表会などの行事を通して、子ども達の持つ力が生かせるように指導できた。(4.5)
6 子育て支援の充実を図ります。	(1) 早朝預かり保育･預かり保育の充実を図ります。	異年齢の交流で良好な人間関係を育てます。	教職員自己評価点 4.2	預かり保育の内容を担当者と打ち合わせをして、より有意義な時間になるようにした。(4.2)
	(2) 安心して預けられる保育体制を整えます。	7:00~18:30 まで子どもが安心して過ごせるようにします。又、課外教室の充実を図ります。	教職員自己評価点 4.2	預かり保育の設定時間を再検討し、保護者の利便性を図った。(4･2)

【施設･設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 安心･安全な教育環境の整備と子どもの活発な活動を促します。	(1) 子どもが安心して楽しく生活をし、興味や関心が高まるように環境を整えます。	保育室の環境を整備し充実に努めます。 ｱ 保育室の教育環境で目的にあった教材を整えます。 ｲ 絵本･紙芝居を豊富に揃えます。	教職員自己評価点 4.2	災害が発生した時に安全に対応する力を培えた。(4.2) 書籍類の充実を図ることで、絵本に関する関心の高さを培った(4.2)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
		ｳ 安全について関心を高め、積極的に運動や遊びができるように整えます。 Ｉ 食べる喜びを感じ、食の大切さを知らせます。		食べる楽しみを感じ、同時に食べることの大切さを感じることができた。(4.2)
	(2) 安心な教育環境整備の充実に努めます。	教材･遊具･用具を利用して活発な行動を身につけます。	教職員自己評価点 4.2	園内における教材等を利用して積極的に活動できる力を養えた。(4.2)
	(3) 自然や社会に触れる環境を整えます。	自然･社会環境の充実を図ります。 ｱ 植物や野菜の栽培をします。 ｲ 飼育を通して、命の大切さに気づかせます。 ｳ 園外保育で公共の施設を知り視野を広げ色々な人との触れ合いを大切にします。	教職員自己評価点 4.0	屋上菜園を有効に利用し、野菜の栽培を経験した。(4.0) 遠足などの園外の生活を経験することで、視野が広がり、触れ合いの機会を持つことができた。(4.2)
	(4) 安全教育･防災教育の推進に努めます。	(4)安全教育･防災教育を実施し、理解を深めます。 ｱ 登降園の安全対策とﾏﾅｰ教育をします。 ｲ 防災･避難訓練を実施します。 ｳ 怪我の予防対策･感染予防に努めます。	教職員自己評価点 4.4	安全についての意識を高め、交通機関を利用している時や災害が発生した時に安全に対応できる力をつけることができた。(4.5)

【教育･研究】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 教育･研究環境の充実を推進します。	(1) 教育環境の整備･充実を図ります。	安心して楽しく生活し、子どもの興味･関心が高まる保育環境を整えます。	教職員自己評価点 4.0	ｸﾗｽ間、各学年の情報を共有し、保育内容の充実、保育技術の向上を目指すことができた。(4.0)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
2 教育･研究基盤の整備を図ります。	(1) 教職員の資質向上を図ります。	園内･外部研修会の推進と実施を図ります。	教職員自己評価点 4.0	園内研修を各学年に渡って実施した。また、園外の研修会に積極的に参加した保育力の向上に努力した。(4.0)
	(2) 教育力の充実を図ります。	教職員の連携と協力の強化を図り情報を共有し合います。	教職員自己評価点 4.2	学年目標を設定し、各学年内おいて、目標設定に差が出ないようにした。(4.2)
	(3) 学年目標の明確化を実施します。	目標達成となるよう意見会を実施します。	教職員自己評価点 4.3	設定した目標が、全員出来るまで情報交換を密にして、達成度をあげた。(4.3)
3 研修の充実と運営体制の充実に努めます。	(1) 研修会参加の充実と向上を図ります。	目標を設定し研鑽に努めます。	教職員自己評価点 4.4	大私幼主催の研修会を初め、さまざまな団体が主催する研修会に参加して研鑽に努めた。(4.5)
4 保護者と連携した教育活動を実践します。	(1) 保護者の気持ちに寄り添い、連携して子どもの育成を図ります。	保育参画の推進を充実させます。	教職員自己評価点 4.2	保護者との信頼関係をより密にするため、園からの丁寧な連絡と、親切な保護者対応ができた。(4.5)
	(2) 保護者の対応は丁寧に実施します。	細やかに手紙や電話で対応し、保護者の信頼度が高まるように努めます。	教職員自己評価点 4.3	「ﾐﾏﾓﾙﾒ」を十分に活用し、文書による連絡も実施しながら、保護者からの信頼に答えられるようにした。(4.5)

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 社会貢献、文化活動の推進を図ります。	(1) 保護者･地域住民へ情報提供し、教育活動の支援と奨励に努めます。	楽しめる行事の案内と推進を図り、また、子どもが進んでできるｴｺｷｬｯﾌﾟ運動を継続します。	教職員自己評価点 4.0	運動会や発表会など保護者が来園しやすいように、案内や座席の優先配慮などを行なった。(4.5) 子どもや保護者が参加しやすい社会活動に参加した。(4.2)
	(2) 子どもの育ちについて、小学校への協力と充実に努めます。	幼保小合同連絡会に参加し、協力を図ります。	教職員自己評価点 4.0	幼小連携強化のための研修会に参加して、情報の共有化に努めた。(4.0) 内部小学校との交流会を積極的に実施した。(4.0)
2 保護者･地域と連携した教育活動を行なう。	(1)保護者との密な連絡と連携を図り、豊かな教育活動に努めます。	子育て相談･談話会･見学会･園庭開放の普及を図り、実施します。	教職員自己評価点 4.0	子育て談話会、保育参観、自由参観、見学会、園庭開放など保護者が来園できる機会を多くして、園の教育活動の理解に努めた。(4.2)

【園児募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
1 内部進学の充実を図ります。	(1) 内部進学の強化と推進を図ります。	小学校と連携し、連絡会などを通して教育活動の理解と園児の受験対策に努めます。	教職員自己評価点 4.0	内部小学校との交流会を実施して、子ども･保護者が意識しやすい機会を作り、また、内部小学校の情報交換の機会を持った。(4.0)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価
2 募集活動の充実を図ります。	(1) ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞなどを活用し、募集対策の推進と充実を図ります。	幼稚園の参加行事への案内や園見学会を実施し、保育内容の普及を図り、賛同に繋げます。	教職員自己評価点 3.5	未就園児が楽しめる行事への参加案内の方法を再検討して、より効果的な宣伝を再検討した。(3.5)
3 就園前の幼児教育を実施します。	(1) 年齢幅を広げた活動の実施と充実に努めます。	教室を開講し、充実した教育活動を行ないます。 ｱ 0~1 歳児の場所提供と他機関の協力を行ないます。 ｲ 2 歳児教室の環境整備と充実を図り保育内容に沿った企画を行ないます。 ｳ ｴｸｻｻｲｽﾞの無料体験教室の充実を図り実施します。	教職員自己評価点 4.2	2 歳児教室のﾌﾟﾚｴｸｻｻｲｽﾞ・ﾌﾟﾚﾊｰﾓﾆｰ・ﾌﾟﾚｲﾝｸﾞﾘｯｼｭなどをより興味が持てるように再検討した。また、2 歳児教室「ひよこ組」のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを変更した。(4.5)

主な新規事業・実施状況

【法人本部】

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	短期大学清風学舎エレベータ改修工事	ワイヤー交換等実施	○
2	フロンガス定期点検 ①ガス空調設備 ②電気空調設備	①・大学リハビリテーション学舎 ・短期大学清風学舎 ・大学看護学部学舎・幼稚園園舎　飯盛嶺校舎 ②・中学校校舎 ・高等学校本館、東館、総合ホール	①○ ②×
3	飯盛嶺校舎・看護学部学舎・幼稚園園舎　ガス保守	大阪ガスと保守契約の締結	○
4	温水プールトイレ改修工事	男女トイレ洋式化工事の実施	△（1階×、2階○）
5	温水プール改修工事	鉄板屋根塗装工事の実施	○
6	短期大学清風学舎改修工事	漏水補修工事の実施	○
7	中学校校舎改修工事	漏水補修工事の実施	○
8	ガス空調メンテナンス	ガス空調設備のメンテンス実施	△（一部実施）
9	圧着機更改	圧着機買い替えの実施	○
10	サーバ更改	統合等による更改実施	○

【大学】リハビリテーション学部

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	標準型骨格モデル増設	運動療法実習室、国家試験対策用の部屋に設置	○
2	徒手筋力計モービィー、ピンチセンサー等購入	作業療法評価・運動学実習等で使用する機器の購入	○
3	学習支援室設置	学習支援室設置に伴う工事の実施	○
4	新倉庫設置什器購入	保管資料の増加に伴い、倉庫を新設し、必要な什器を購入	×（30年度実施予定）

【大学】看護学部

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	男子ロッカー増設対応	男子の学生数増加対応	○

【短期大学】

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	乳児モデル購入	乳児7～10ヶ月モデル購入（こどもの保健で使用）	○

【高等学校】

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	PC 教室機器更改	PC 教室に設置しているPC、プリンタ等の機器の更改	○
2	家庭科用ミシン増設	クラブ等での利用者数増に伴う増設の実施	○
3	図書館備品購入	生徒用カバン置き、シュレッダー設置	○
4	フレンチホルン購入	吹奏楽部用購入	○
5	卓球台増設	卓球部での需要増に対応するため卓球台増設	×
6	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約、WEB 出願）の導入	○

【中学校】

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	教員用タブレット PC の購入	教員用のタブレット PC 購入	○
2	学校日誌・出席簿のデジタル化対応	教員の負担軽減のためのシステム導入	○
3	楽器購入	吹奏楽部が使用する楽器（トランペット、ホルン等）の購入	○
4	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約、WEB 出願、合否照会、入学金振込）の導入	○

【小学校】

No	事業名称	事業概要	実施上級
1	マグネットスクリーン導入	全学園の教室にマグネットスクリーンの導入	○
2	机・椅子の買い替え	5年生全員の机・椅子の買い替え	○
3	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約）の導入	○

【幼稚園】

No	事業名称	事業概要	実施状況
1	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約、WEB 出願、合否照会、入学金振込）の導入	○
2	園児用椅子の入れ替え	園児用椅子の買い替え	○

Ⅲ．決算の概要

1．概要

(1) 事業活動収支計算書（前年決算との増減比較）

教育活動収入のうち、授業料が、大学看護学部の学年進行により 100 百万円増加したものの、他校園の学生・生徒数等の減少により校園全体で 21 百万円の減少、施設設備資金では、大学の学生増により 7 百万円増加した一方、入学金は、大学で 2 百万円減収、学納金全体では 14 百万円の減収となりました。

寄付金は、90 周年記念寄付金の募集終了により 18 百万円減少しました。

国庫補助金は、大学短大の経常費補助金が 43 百万円増加しました。地方公共団体補助金は、小中高経常費補助金で 11 百万円増加し、新たに開始された私立中学校等修学支援実証事業費補助金（授業料相殺）で 19 百万増になりましたが、高等学校の在籍者減から授業料支援補助金（授業料相殺）が 15 百万円減少しました。補助金収入全体では 61 百万円の増収となりました。

付随事業収入は、高校の長期留学者が 6 名減少したことにより 18 百万円減少しました。

雑収入は、退職金財団交付金が 9 百万円増、退職給与引当金取崩が 4 百万円増、保険料払戻金が 3 百万円増、科研費間接経費が 8 百万円増加し、全体では 27 百万円の増収となりました。

これらの結果、平成 29 年度の教育活動収入は、前年比 41 百万円増の 4,119 百万円となりました。

教育活動支出のうち、人件費は、本務教員の定年退職の替わりを嘱託教員等で補ったことや理事異動による役員報酬の減少等により、全体で 32 百万円の減少となりました。

物件費は、温水プールと中学校屋根の塗装工事等で修繕費が全体で 18 百万円増加したが、創立 90 周年記念行事の終了による関連経費が無くなり 28 百万円減、大学リハビリテーション学部等の減価償却費が 38 百万円減少したことから、総額で 56 百万円減少しました。

以上の結果、教育活動支出は前期比 88 百万円減の 4,229 百万円となり、教育活動収支差額も前年比 129 百万円改善し、支出超過額も 110 百万円まで回復しました。

教育活動外収支は、受取利息・配当金が、運用利回りの低下から前年比 1 百万円減少して 17 百万円の収入超過となったことから、平成 29 年度の経常収支差額は 127 百万円改善し、93 百万円の支出超過となりました。

また、特別収支は 90 周年設備寄付金募集終了により 3 百万円減少しましたが、企業主導型保育事業（整備費）助成金 7 百万円と高校 IT 教育設備整備推進事業費金 3 百万円の増収と、現物寄付が 2 百万円増加した事から、前年比 10 百万円増となる 18 百万円の収入超過となり、平成 29 年度の基本金繰入前当年度収支差額は、前年度から 137 百万円改善し、▲75 百万円になりました。

(2) 資金収支計算書

運用有価証券残高 280 百万円増額に加え、約 61 百万円の手元資金増となっています。

2．事業活動収支計算書

平成29年度　事業活動収支計算書

平成29年　4月 1日　から
平成30年　3月31日　まで

（単位　千円）

	教育活動収支	29年度決算	29年度決算見込み	差　異	28年度決算	差　異
	科　　目	(S)	(T)	(S)-(T)	(U)	(S)-(U)
1	学生生徒等納付金	2,631,912	2,627,000	4,912	2,645,725	△ 13,813
2	授業料	2,147,722	2,143,700	4,022	2,168,707	△ 20,985
3	入学金	278,215	278,200	15	280,475	△ 2,260
4	実験実習料	93,515	91,600	1,915	91,719	1,796
5	施設設備資金	112,460	113,500	△ 1,040	104,824	7,636
6	手数料	60,224	60,100	124	57,879	2,345
7	寄付金	4,600	3,700	900	22,140	△ 17,540
8	経常費等補助金	1,226,893	1,224,300	2,593	1,164,990	61,903
9	国庫補助金	143,555	143,600	△ 45	100,217	43,338
10	地方公共団体補助金	1,083,338	1,080,700	2,638	1,064,773	18,565
11	付随事業収入	86,810	84,900	1,910	104,732	△ 17,922
12	雑収入	108,985	96,300	12,685	82,531	26,454
13	収入の部　合計　(A)	4,119,424	4,096,300	23,124	4,077,997	41,427
14	人件費	2,973,954	2,973,900	54	3,005,869	△ 31,915
15	教員人件費	2,377,071	2,377,500	△ 429	2,427,904	△ 50,833
16	職員人件費	464,399	464,500	△ 101	433,556	30,843
17	役員報酬	22,589	22,600	△ 11	33,393	△ 10,804
18	退職金	53,405	49,400	4,005	45,132	8,273
19	退職給与引当金繰入額	56,490	59,900	△ 3,410	65,884	△ 9,394
20	教育研究経費	1,039,036	1,027,500	11,536	1,071,567	△ 32,531
21	管理経費	216,874	211,000	5,874	239,928	△ 23,054
22	徴収不能額等	0	500	△ 500	0	0
23	支出の部　合計　(B)	4,229,864	4,212,900	16,964	4,317,364	△ 87,500
24	教育活動収支差額(C)=(A)−(B)	△ 110,440	△ 116,600	6,160	△ 239,367	128,927

	教育活動外収支	29年度決算	29年度決算見込み	差　異	28年度決算	差　異
	科　　目	(S)	(T)	(S)-(T)	(U)	(S)-(U)
30	受取利息・配当金	24,551	24,500	51	25,216	△ 665
31	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
32	収入の部　合計　(D)	24,551	24,500	51	25,216	△ 665
33	借入金等利息	0	0	0	0	0
34	その他の教育活動外支出	6,686	6,400	286	5,737	949
35	支出の部　合計　(E)	6,686	6,400	286	5,737	949
36	教育活動外収支差額(F)=(D)−(E)	17,865	18,100	△ 235	19,479	△ 1,614
37	経常収支差額(G)=(C)+(F)	△ 92,575	△ 98,500	5,925	△ 219,888	127,313

学校法人 四條畷学園

	特別収支	29年度決算	29年度決算見込み	差　異	28年度決算	差　異
	科　　目	(S)	(T)	(S)-(T)	(U)	(S)-(U)
40	資産売却差額	0	0	0	0	0
41	その他の特別収入	19,161	12,300	6,861	11,655	7,506
42	収入の部　合計　(H)	19,161	12,300	6,861	11,655	7,506
43	資産処分差額	669	300	369	3,012	△ 2,343
44	その他の特別支出	423	400	23	361	62
45	支出の部　合計　(I)	1,092	700	392	3,373	△ 2,281
46	特別収支差額(J)=(H)−(I)	18,069	11,600	6,469	8,282	9,787
47	予備費(K)	0	0	0	0	0
48	基本金組入前当年度収支差額(L)=(G)+(J)-	△ 74,506	△ 86,900	12,394	△ 211,606	137,100
49	基本金組入額合計(M)	△ 52,922	△ 59,100	6,178	△ 56,840	3,918
50	当年度収支差額(N)=(L)+(M)	△ 127,428	△ 146,000	18,572	△ 268,446	141,018
51	前年度繰越収支差額(O)	△ 5,622,622	△ 5,622,622	0	△ 5,363,890	△ 258,732
52	基本金取崩額(P)	41,946	10,000	31,946	9,714	32,232
53	翌年度繰越収支差額(Q)=(N)+(O)+(P)	△ 5,708,104	△ 5,758,622	50,518	△ 5,622,622	△ 85,482
	参考					
60	事業活動収入　計	4,163,136	4,133,100	30,036	4,114,868	48,268
61	事業活動支出　計	4,237,642	4,220,000	17,642	4,326,474	△ 88,832

3. 資金収支計算書

平成29年度　資金収支計算書

平成29年　4月 1日　から
平成30年　3月31日　まで

（単位　千円）

	資金収入の部 科目	29年度決算 (D)	29年度決算見込み (E)	差異 (D)-(E)	28年度決算 (F)	差異 (D)-(F)
1	学生生徒等納付金収入	2,631,912	2,627,000	4,912	2,645,725	△ 13,813
2	授業料収入	2,147,722	2,143,700	4,022	2,168,707	△ 20,985
3	入学金収入	278,215	278,200	15	280,475	△ 2,260
4	実験実習料収入	93,515	91,600	1,915	91,719	1,796
5	施設設備資金収入	112,460	113,500	△ 1,040	104,824	7,636
6	手数料収入	60,224	60,100	124	57,879	2,345
7	寄付金収入	3,712	3,700	12	24,026	△ 20,314
8	補助金収入	1,237,531	1,231,600	5,931	1,164,990	72,541
9	国庫補助金収入	150,906	150,900	6	100,217	50,689
10	地方公共団体補助金収入	1,086,625	1,080,700	5,925	1,064,773	21,852
11	資産売却収入	220,000	220,000	0	600,000	△ 380,000
12	付随事業・収益事業収入	86,810	84,900	1,910	104,732	△ 17,922
13	受取利息・配当金収入	24,551	24,500	51	25,216	△ 665
14	雑収入	104,980	96,300	8,680	82,017	22,963
15	前受金収入	490,797	508,800	△ 18,003	493,296	△ 2,499
16	その他の収入	1,980,112	1,945,700	34,412	2,036,215	△ 56,103
17	資金収入調整勘定	△ 571,531	△ 567,600	△ 3,931	△ 563,022	△ 8,509
18	収入の部　合計　(A)	6,269,098	6,235,000	34,098	6,671,074	△ 401,976

	資金支出の部 科目	29年度決算 (D)	29年度決算見込み (E)	差異 (D)-(E)	28年度決算 (F)	差異 (D)-(F)
20	人件費支出	2,978,322	2,978,900	△ 578	3,020,011	△ 41,689
21	教員人件費支出	2,377,071	2,377,500	△ 429	2,427,904	△ 50,833
22	職員人件費支出	464,399	464,500	△ 101	433,556	30,843
23	役員報酬支出	22,589	22,600	△ 11	33,393	△ 10,804
24	退職金支出	114,263	114,300	△ 37	125,158	△ 10,895
25	教育研究経費支出	618,822	607,300	11,522	613,595	5,227
26	管理経費支出	208,362	203,800	4,562	231,114	△ 22,752
27	施設関係支出	28,935	25,800	3,135	24,480	4,455
28	設備関係支出	37,295	33,300	3,995	19,572	17,723
29	資産運用支出	560,976	568,400	△ 7,424	901,403	△ 340,427
30	その他の支出	1,880,217	1,860,600	19,617	1,897,585	△ 17,368
31	予備費	0	0	0	0	0
32	資金支出調整勘定	△ 104,601	△ 64,600	△ 40,001	△ 76,228	△ 28,373
33	支出の部　合計　(B)	6,208,328	6,213,500	△ 5,172	6,631,532	△ 423,204

40	前年度繰越支払資金　(C)	945,443	945,443	0	905,906	39,537
41	翌年度繰越支払資金　(A)−(B)+(C)	1,006,213	966,943	39,270	945,443	60,770
42	当期資金増減	60,770	21,500	39,270	39,537	21,233

学校法人四條畷学園

4．貸借対照表

貸借対照表

平成30年 3月31日

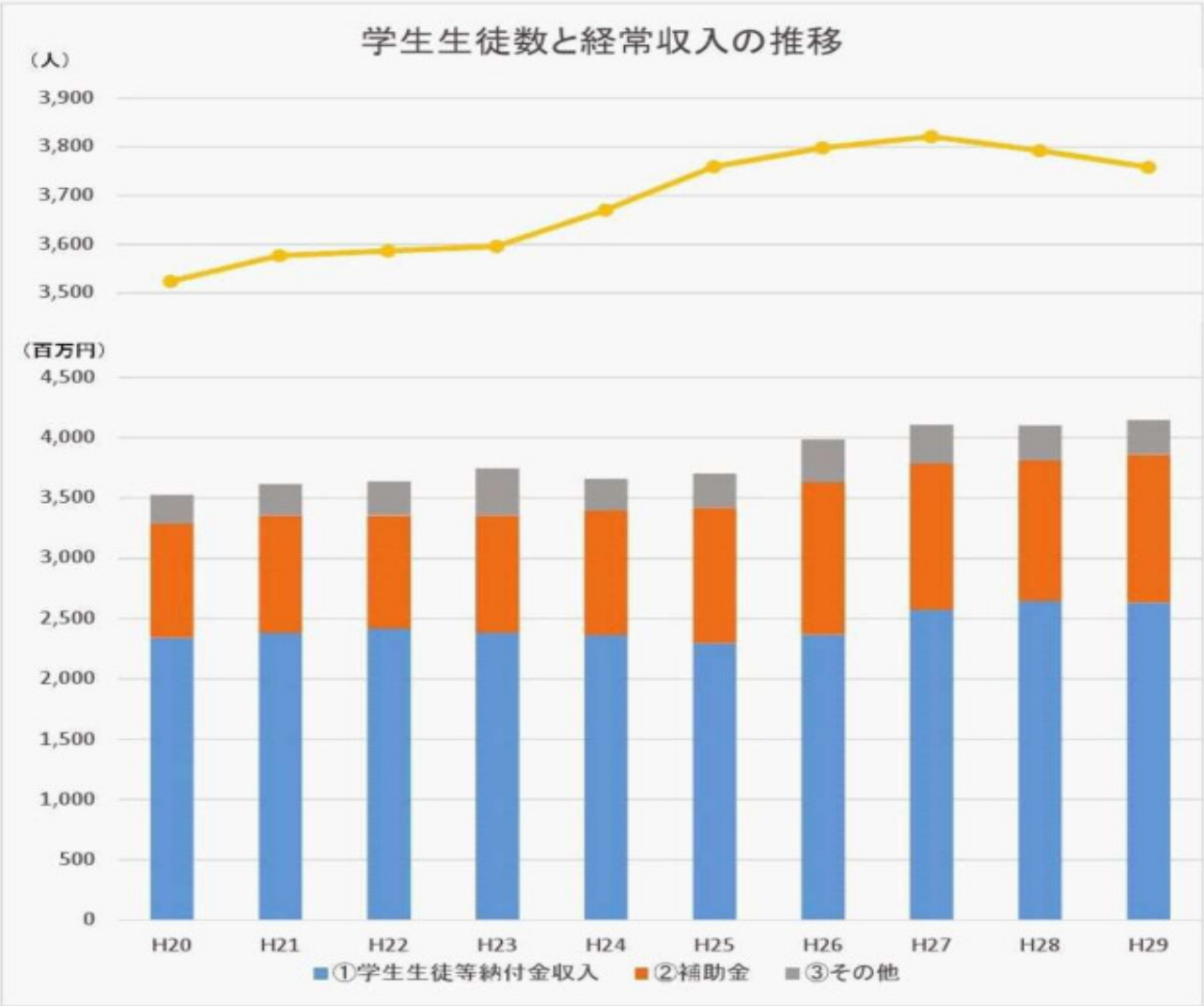
（単位 円）

[資産の部]			
科　　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	**11,319,306,574**	**11,639,778,598**	**△ 320,472,024**
有形固定資産	**8,567,101,772**	**8,920,924,470**	**△ 353,822,698**
土地	364,003,596	364,003,596	0
建物	7,540,579,692	7,867,174,741	△ 326,595,049
構築物	212,834,113	233,770,686	△ 20,936,573
教育研究用機器備品	178,342,342	190,241,592	△ 11,899,250
管理用機器備品	10,872,577	9,673,273	1,199,304
図書	260,469,451	256,060,581	4,408,870
車輌	1	1	0
特定資産	**629,296,347**	**637,664,188**	**△ 8,367,841**
退職給与引当資産	629,296,347	637,664,188	△ 8,367,841
その他の固定資産	**2,122,908,455**	**2,081,189,940**	**41,718,515**
有価証券	2,122,908,455	2,021,208,644	101,699,811
保険積立金	0	49,981,296	△ 49,981,296
長期定期預金	0	10,000,000	△ 10,000,000
流動資産	**1,594,181,094**	**1,312,386,591**	**281,794,503**
現金預金	1,006,213,195	945,442,677	60,770,518
未収入金	78,969,723	48,934,555	30,035,168
貯蔵品	45,155	60,019	△ 14,864
有価証券	400,089,174	220,335,166	179,754,008
前払金	8,595,776	10,034,593	△ 1,438,817
立替金	714,439	431,938	282,501
仮払金	30,000	2,886,635	△ 2,856,635
修学旅行費預り預金	99,523,632	84,261,008	15,262,624
資産の部合計	**12,913,487,668**	**12,952,165,189**	**△ 38,677,521**

[負債の部]			
科　　目	本年度末	前年度末	増　減
固定負債	**629,296,347**	**637,664,188**	**△ 8,367,841**
退職給与引当金	629,296,347	637,664,188	△ 8,367,841
流動負債	**797,747,878**	**753,550,818**	**44,197,060**
未払金	95,334,825	64,561,665	30,773,160
前受金	490,797,190	493,296,010	△ 2,498,820
預り金	106,709,734	113,696,433	△ 6,986,699
修学旅行費預り金	104,906,129	81,996,710	22,909,419
負債の部合計	**1,427,044,225**	**1,391,215,006**	**35,829,219**

[純資産の部]			
科　　目	本年度末	前年度末	増　減
基本金	**17,194,548,481**	**17,183,572,859**	**10,975,622**
第1号基本金	16,896,548,481	16,885,572,859	10,975,622
第4号基本金	298,000,000	298,000,000	0
繰越収支差額	**△ 5,708,105,038**	**△ 5,622,622,676**	**△ 85,482,362**
翌年度繰越収支差額	**△ 5,708,105,038**	**△ 5,622,622,676**	**△ 85,482,362**
純資産の部合計	**11,486,443,443**	**11,560,950,183**	**△ 74,506,740**

科　　目	本年度末	前年度末	増　減
負債及び純資産の部合計	**12,913,487,668**	**12,952,165,189**	**△ 38,677,521**


学生生徒数と経常収入の推移
（人）
3,900
3,800
3,700
3,600
3,500
（百万円）
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
H20
H21
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
①学生生徒等納付金収入
②補助金
③その他

経常支出の推移
（百万円）
4,500
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
H20
H21
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
④人件費
⑤教育研究費
⑥管理経費・その他

学校法人四條畷学園